

広島湾再生行動計画
第2回中間評価

平成26年3月25日

広島湾再生推進会議

目 次

広島湾再生行動計画について	p. 1
目標達成状況を評価する指標の設定	p. 2
中間評価の方法	p. 3
中間評価の結果	p. 4
目標 1：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。 （水環境の再生）	p. 4
目標 1：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。 （生物生息・生産の場の保全・再生）	p. 13
目標 2：人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。	p. 17
目標 3：宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を 保全する。	p. 26
広島湾再生行動計画 第2回中間評価 パブリックコメント結果	p. 31
1. パブリックコメントの実施概要	p. 31
2. パブリックコメント資料	p. 32
3. パブリックコメント結果及び個別意見と、ご意見に対する考え方について	p. 43

広島湾再生行動計画について

広島湾について

広島湾は流域の面積が 3,743 平方キロメートル、海域の面積が 1,043 平方キロメートルの閉鎖性の海域です。流域人口は、広島県と山口県の約 42%にあたる約 180 万人となっています。



広島湾の課題

水環境の課題

北部海域では、夏季に**有害プランクトンによる赤潮**や、海底付近の酸素が無くなる**貧酸素水塊***が発生しています。

※貧酸素水塊（ひんさんすいかい）…酸素濃度が低下した海水の塊が広い範囲に発生している状態のこと、海底に住む生物に影響を及ぼします。

生物生息環境の課題

生物の生息にとって重要な**干潟や藻場などの浅場が、北部海域では特に減少**しています。



親水空間と水辺の触れ合い機会の課題

沿岸部では**親水空間が減少**しており、島しょ部などでは、**海との触れ合いを目的とした観光客が減少**しています。

自然・歴史・文化に関する課題

漂流・漂着・海底ごみや不適正処理された廃棄物による海の景観・環境の悪化等の問題が見られます。

広島湾再生行動計画の目標

広島湾の良好な環境の再生を目指して、行政や地域住民が連携して環境保全・再生に関する取り組みを総合的に推進するための「**広島湾再生行動計画**」を策定しました。

広島湾再生行動計画では、行政や地域住民が連携して広島湾の保全・再生を進めるため、**以下の目標を設定しました。**

広島湾再生行動計画における目標

森・川・海の健やかな繋がりを活かし、恵み豊かで美しく親しみやすい「広島湾」を保全・再生し、次世代へ継承する。

1 森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。

様々な利用に適した水環境の再生を、森・川・海の対策が連携して進めていきます。また、生物の生息のある干潟・藻場などの浅場もできる限り保全・再生していきます。



人工林の間伐
(北広島町)



下水道における高度処理の推進
(太田川流域下水道東部浄化センター)

2 人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

魅力ある親水空間の創出や、親水空間の利用を活性化することで、広島湾に対する人々の関心を高め、広島湾の保全・再生に積極的に参加できるような環境を目指します。



水の都ひろしまづくりの推進
(京橋川オープンカフェ)



新たな親水空間の整備
(宇品デポルトピア)

3 宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

広島湾に存在する宮島をはじめとする豊富な自然景観、歴史・文化的資源を活用しつつ、地域と連携して保全し、美しい広島湾を次世代へ継承していくことを目指します。



清掃船によるごみ回収
(海面清掃船「おんど2000」)



市民参加による清掃美化活動の推進
(「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動)

広島湾再生行動計画策定（平成 19 年 3 月）

第 1 回中間評価（平成 22 年度実施）

第 2 回中間評価（平成 25 年度実施）

計画期間（平成 28 年度までの 10 年間）

中間評価の実施方法

これまでの取り組み

…取り組みの進捗状況を評価。

広島湾の状態

…広島湾の保全・再生状況を評価。

評価時期：平成 18 年度末（行動計画策定前）を基準として、平成 24 年度末時点を対象に評価を実施。



目標達成状況を評価する指標の設定

行動指標 … 取り組みの進捗状況の評価

状態指標 … 広島湾の保全・再生状況の評価

目標達成状況を評価するための指標の一覧

目 標	指 標【目 安】	行 動 指 標	状 態 指 標	備 考
森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する	(1)水環境の再生			
	污水处理人口普及率【約7%向上】	○		
	合流式下水道の改善【8地区改善】	○		
	下水道高度処理人口普及率【約13%向上】	○		
	森林の保全・整備状況 ^{注1)} 【約14,000ha】	○		目安は H24～H28 の保全・整備面積
	底質の改善 ※海田湾(アピールエリア)【パイロット事業の実施】	○		
	赤潮の発生状況		○	赤潮発生件数、面積、被害状況などを監視
	底層DO		○	貧酸素水塊の発生状況を監視
	透明度 ^{注2)}		○	親水利用や藻場の生育に適した水環境が確保されているかどうかを透明度により監視
	形態別の栄養塩類		○	広島湾内の物質循環を把握するために必要な無機態、有機態の栄養塩類の状況を監視
	かき収穫量		○	広島湾の水質に関わりがあると考えられるかき養殖の状況を監視
	(2)生物生態・生産の場の保全・再生			
人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。	干潟・藻場等の浅場の保全・再生面積【約90ha 保全・再生】	○		
	生物の生態に配慮した環境配慮型構造物の延長【1,200m】	○		
	浅場等に生息する生物の種類数、個体数		○	
	野鳥園・緑地の整備箇所数【3箇所】	○		
	海洋性レクリエーション拠点の整備【1箇所】	○		
	新たに水辺に触れ合うことが出来る海岸線延長【1,200m】	○		
	地域住民との協働による護岸整備【広島港海岸での実施】	○		
	眺望点の整備、修復箇所数【2箇所】	○		
	環境教育・普及啓発活動【現状以上】	○		
	代表的な親水施設の利用状況		○	広島湾流域の住民による親水施設の利用状況を、無作為抽出アンケート等により監視
	広島湾の保全・再生に関するシンポジウム、フォーラム等への参加人数		○	
	森林ボランティア等の参加状況		○	森・川・海の連携による取り組み（森林保全）の状況を、参加人数等により監視
宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。	海洋レジャー客数の延べ人数		○	海水浴、潮干狩り、釣り（船釣り、磯・浜釣り）等の利用客数を統計資料により監視
	広島湾の環境保全・再生に関する住民等の意識		○	広島湾の環境保全・再生に関する住民等の意識の変化を無作為抽出アンケート等により監視
	広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数		○	
	住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施【現状以上】	○		
	市民連携による清掃活動等の参加人数 ^{注3)} 【現状以上】	○		
	自然景観、歴史・文化的資源の保全状況		○	宮島等の代表的な自然景観、歴史・文化的資源について、定期的に写真撮影する等により、景観の変化を監視
	観光地（自然景観、歴史・文化的資源）への年間入込客数		○	観光地毎の入込客数（発地別、目的別）等を統計資料により監視

注1)平成23年度の指標の見直しにより、目標「森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する」の状態指標から行動指標に移動。

注2)平成23年度の指標の見直しにより、目標「人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。」の状態指標から、目標「森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する」の状態指標に移動。

注3)平成23年度の指標の見直しにより、目標「人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。」の状態指標から、目標「宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。」の行動指標に移動。



中間評価の方法

1. 評価時期(第2回中間評価)

行動指標、状態指標ともに、平成 18 年度末(行動計画策定前)を基準として、平成 24 年度末時点を対象に評価を実施した。

注1) 汚水処理人口普及率、下水道高度処理人口普及率については、計画策定前の最新データである平成 17 年度を基準とした。

注2) 森林の保全・整備面積は、平成 23 年度に新たな目安を設定したため、平成 23 年度を基準として評価を実施した。

注3) その他の指標で、平成 18 年度末時点のデータが存在しないものについては、平成 19 年度を基準として評価を実施した。

2. 評価方法

行動指標

施策の実施状況を、以下のとおり3段階に分けて評価した。



… 現時点で目安を達成している。



… 着実に施策が進捗している。



… 目安の達成に向けてさらなる実施が必要。

状態指標

広島湾の保全・再生状況を、以下のとおり3段階に分けて評価した。



… 状態が改善傾向にある。



… 状態が概ね維持されている。



… 状態の改善が必要である。

中間評価の結果

目標 1 :
森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな
広島湾を保全・再生する。
(水環境の再生)

<評価項目>

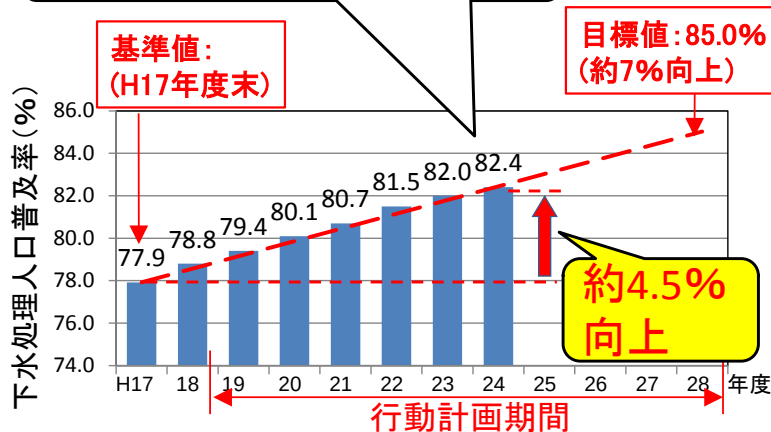
行動指標【目標値】
汚水処理人口普及率【約7%向上】
合流式下水道の改善【8地区改善】
下水道高度処理人口普及率【約13%向上】
底質の改善 ※海田湾(アピールエリア)【パイロット事業の実施】
森林の保全・整備状況【約14,000ha】
状態指標【目標値】
赤潮の発生状況
底層DO【数値目標:夏季底層 DO = 2mg/L 以上】
透明度【数値目標①:夏季透明度 1m 以上、数値目標②:年間平均透明度 4m 以上】
形態別の栄養塩類
かき収穫量

【行動指標】 汚水処理人口普及率（目標値：約7%向上）



- ・下水道処理人口普及率（農業集落排水等を除く）は、平成24年度末時点で約4.5%向上。
- ・下水道以外の対策（農業集落排水施設整備、浄化槽整備促進等）も継続して実施中。

行動計画に沿って、下水道整備が進んでいる。



下水道処理人口普及率の推移
(広島湾流域)

注) 広島湾再生行動計画策定時点(平成18年度末)における下水道処理人口普及率の最新データは平成17年度末であったため、基準値は平成17年度末の普及率である77.9%とした。

＜施策の実施例＞



西部水資源再生センター
(広島市: 増設中)

【行動指標】 合流式下水道の改善（目標値：8地区改善）



- ・4地区で整備完了(～平成24年度)
- ・4地区で事業実施中(平成28年度までに、全ての地区で事業完了予定)

合流式下水道改善計画の一覧(H24年度末現在)

自治体名	地区名	対策内容	計画年次											
			H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
広島市	千田地区	雨水滞水池、遮集管(白鳥)の建設												
	江波地区	雨水滞水池の建設、スクリーン目幅の縮小												
	宇品地区	雨水滞水池の建設												
	旭・翠地区	雨水滞水池の建設												
	大州地区	雨水滞水池、遮集幹線の建設												
呉市	新宮処理区	雨天時下水活性汚泥処理法の採用												
大竹市(和木町)	大竹処理区	雨水滞水池の建設												
岩国市	一文字処理区	高速ろ過の導入												

■...事業実施中 ■...事業完了

＜施策の実施例＞



雨水滞水池(千田地区)の増設(広島市)



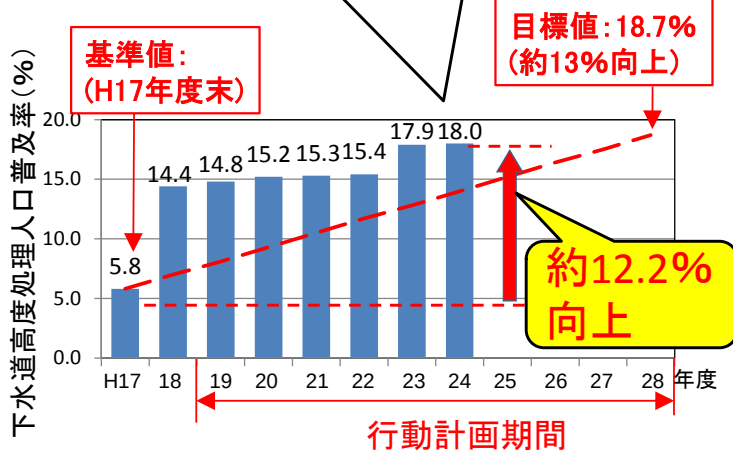
大竹処理区 雨水滞水池(完成)

下水処理場への送水能力を向上するための遮集管の整備や雨水滞水池の整備を実施。

【行動指標】下水道高度処理人口普及率（目標値：約13%向上）

・下水道高度処理人口普及率は、平成24年度末時点で約12.2%向上。

行動計画に沿って、下水道の高度処理化が進んでいる。



下水道高度処理人口普及率の推移
(広島湾流域)

注) 広島湾再生行動計画策定時点(平成18年度末)における下水道高度処理人口普及率の最新データは平成17年度末であったため、基準値は平成17年度末の普及率である5.8%とした。

＜施策の実施例＞



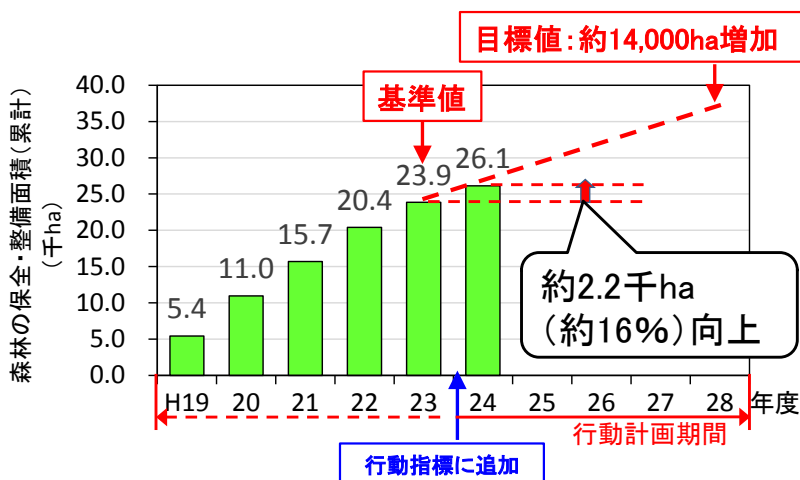
太田川流域下水道東部浄化センターにおける高度処理の導入推進(広島県)

【行動指標】森林の保全・整備状況

(目標値：平成24～28年度で約14,000ha)

森林の保全・整備面積は、平成24年度末時点で約2.2千ha(約16%)向上。

※平成23年度の指標の見直しにより、目標1の行動指標に移動。



森林の保全・整備面積(広島湾流域内;累計値)

＜施策の実施例＞



下刈作業(高鉢山国有林)
近畿中国森林管理局



地域住民が主体となった継続的な森林保全活動
(江田島市) 広島県

【行動指標】底質の改善（目標値：海田湾におけるパイロット事業の実施）



- ・海田湾の海域環境を改善するために、石炭灰造粒物を用いて、平成22年度に実証実験を実施。
- ・現地実証試験後（平成22年度以降）は、モニタリング調査等や水質シミュレーションモデルによる海域環境改善効果の検証等を行い、平成24年度末に、本技術の実用化に向けた手引きをとりまとめ、平成25年度に、中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所ホームページ上で公表した。

【事業完了】



底質改善実証試験の実施場所



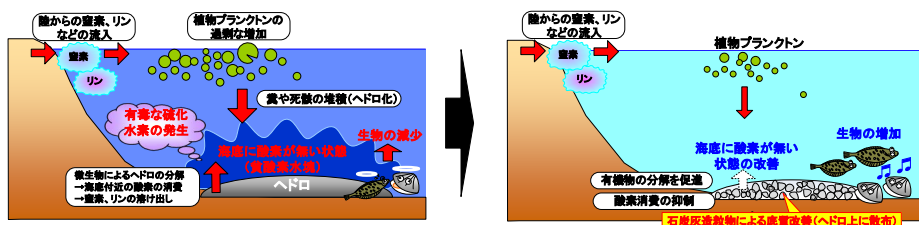
石炭灰造粒物

火力発電等で発生した石炭灰を造粒したもの。多孔質で、泥質中の硫化水素やリンの吸着性能に優れている。



石炭灰造粒物による底質改善で期待する効果

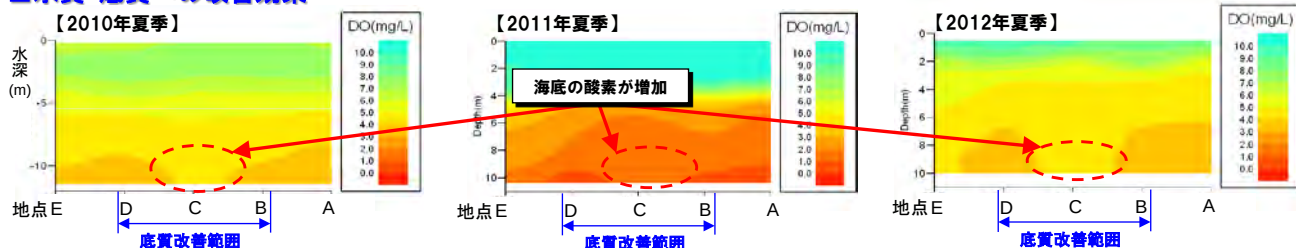
- ①石炭灰造粒物を海底に被覆することで、水質（酸素）、底質（硫化水素の発生）などを改善する。
- ②石炭灰造粒物被覆層の内部に有機物を捕捉し分解を促進することで、海底泥のヘドロ化を抑制する。
- ③水質、底質の改善効果により、底生生物が増加する。



石炭灰造粒物による底質改善後のイメージ

施工後のモニタリング調査の結果、海底付近のDO（溶存酸素）の増加、海底泥中の硫化水素の低減などの効果が得られた。それにより、イシガニやテッポウエビなどの生物が増加するなど、今後水産資源の増加などが期待される。

■水質・底質への改善効果



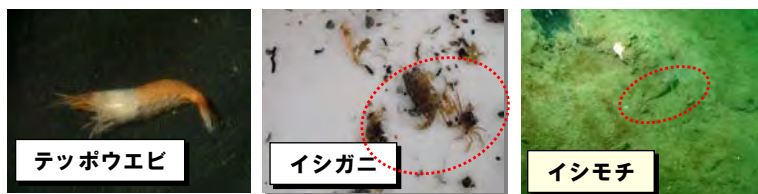
2010～2012年の底質改善範囲周辺の底層DOの分布

※2011年夏季の底層DO濃度が、他の年に比べ低くなっている理由：

2011年は、モニタリングを実施した9月に187.5mmの降水量を記録しており（2010年は65mm、2012年は70mm）、海田湾の表層に比重の小さい河川水（淡水）が流入しやすい状況であった。

このため、比重の小さい淡水と比重の大きい海水の間に層が形成され、海水が混ざりにくい（＝表層の酸素が海底に供給されにくい）状態となったことで、海底付近のDO濃度が低下したと考えられる。

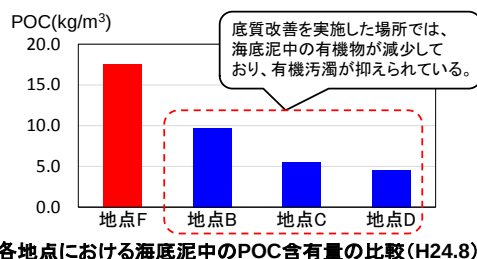
■底生生物への効果



底質改善範囲で確認された底生生物（一部）

トピック

～石炭灰造粒物を海底に被覆することで、海底の有機汚濁を抑える効果を確認～



各地点における海底泥中のPOC含有量の比較（H24.8）

注）POC・・・懸濁態炭素
海底泥中の有機物量を表す指標で、POCが高いほど、海底泥の有機汚濁が進んでいることを示す。

- ・海田湾の底質改善効果については、平成24年度までの長期モニタリング結果や水質シミュレーションモデルに基づき、その効果を検証するとともに、本技術の実用化に向けた「石炭灰造粒物による底質改善手法の手引き」をとりまとめ、公表した。
- ・実証実験の結果、水質・底質の改善効果、底生生物への効果が得られたことから、今後、広島県が海田湾における事業計画を立案していく予定。

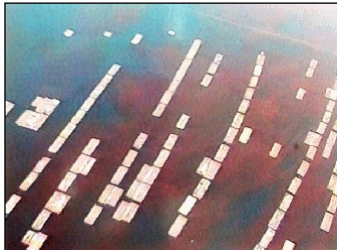
※海田湾以外にも、ヘドロが堆積した広島湾奥部や太田川において、行政、大学など多様な主体により、産業系リサイクル材料を用いた、効率的かつ効果的な底質改善のための実験を推進し、その効果をモニタリング調査中。

【状態指標】 赤潮の発生状況

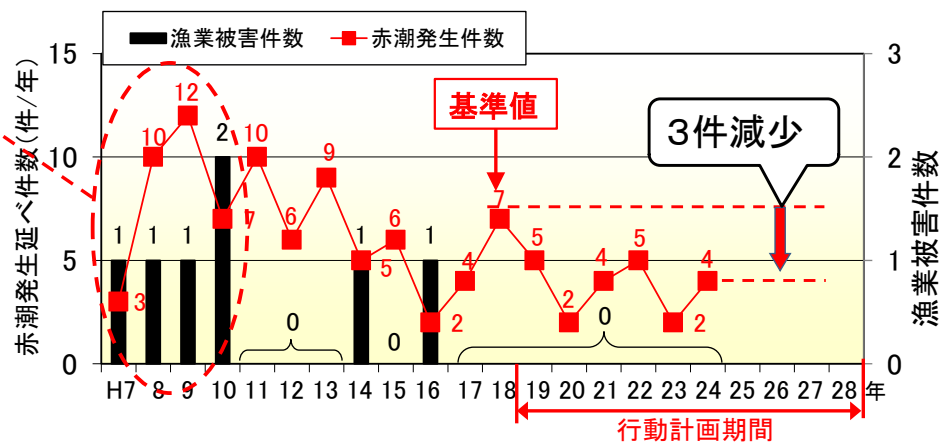


- ・赤潮発生件数：7件（平成18年度）→4件（平成24年度） ※3件減少
- ・行動計画策定後、赤潮による漁業被害は発生していない。

平成7年～10年頃にかけて、ヘテロカプサ赤潮による漁業被害が多発



写真提供：
（独）水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所



出典：広島県の赤潮（広島県）

赤潮発生件数、漁業被害件数の推移（北部海域）

「瀬戸内海の赤潮（水産庁瀬戸内海漁業調整事務所）」、「広島県の赤潮（広島県）」によると、近年は赤潮の発生が少ないことや、赤潮警報の発令などの効果により、かき養殖への被害は確認されていない。

【状態指標】 底層DO ※数値目標を設定

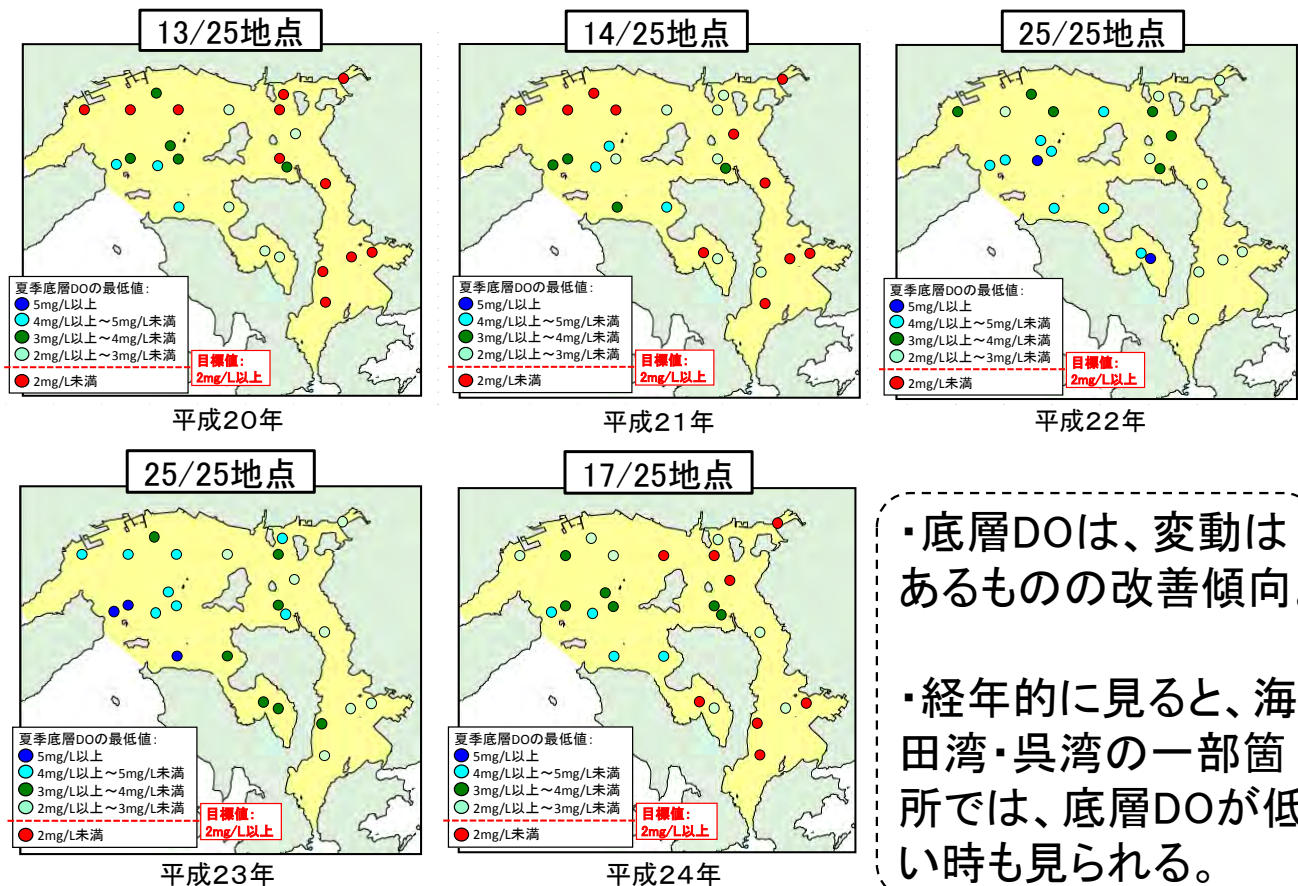


・数値目標(夏季底層DOが2mg/Lを下回らないこと)を満足している地点は、

平成20年	13/25地点 (52%)
平成21年	14/25地点 (56%)
平成22年	25/25地点 (100%)
平成23年	25/25地点 (100%)
平成24年	17/25地点 (68%)

※底層DOのモニタリング時期・・・毎月1回(広島県)、年4回(国土交通省)

毎月1回(第六管区海上保安本部; 平成24年度は2ヶ月に1回)



・底層DOは、変動はあるものの改善傾向。

・経年的に見ると、海田湾・呉湾の一部箇所では、底層DOが低い時も見られる。

数値目標のとの比較(底層DO)

※平成20、21、24年に底層DOが2mg/Lを下回る地点が多い理由として、これらの年は水深方向に水温の変化が大きい層が発達しており、海水が混ざりにくくなったため、海底付近へ供給される酸素が少なくなったものと考えられる。

※水環境は様々な要因で変動することから、必要なモニタリングは継続する。

【参 考】

夏季底層DOの最低値が5mg/Lを上回る地点数:

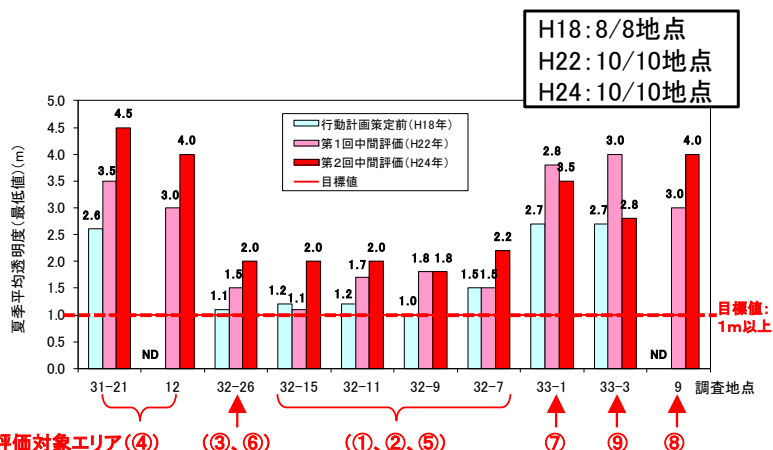
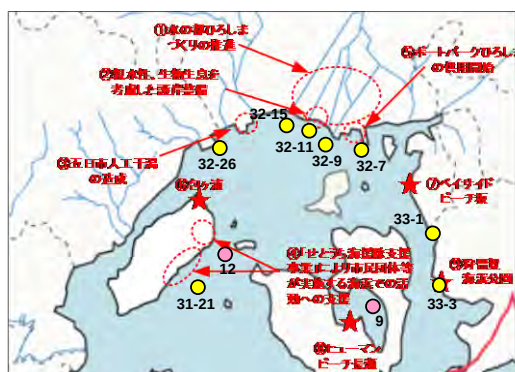
平成20年	0/25地点	平成23年	3/25地点
平成21年	0/25地点	平成24年	0/25地点
平成22年	2/25地点		

出典) 浅海定線調査(広島県)、環境保全調査(第六管区海上保安本部)、瀬戸内海総合水質調査(国土交通省)

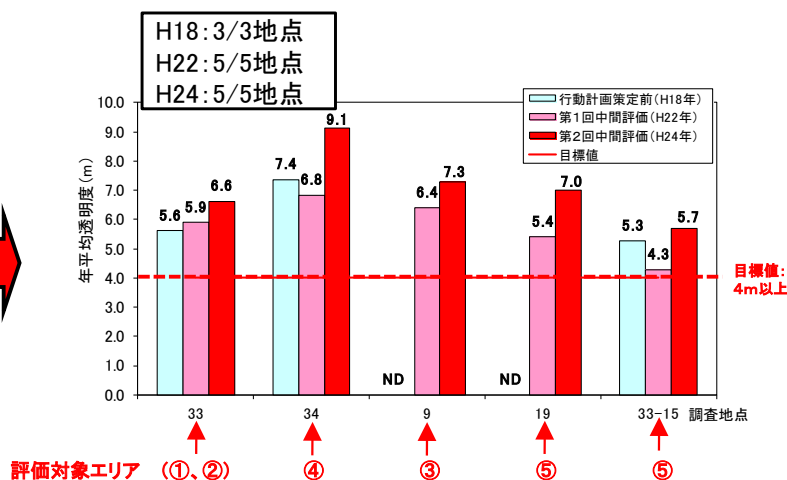
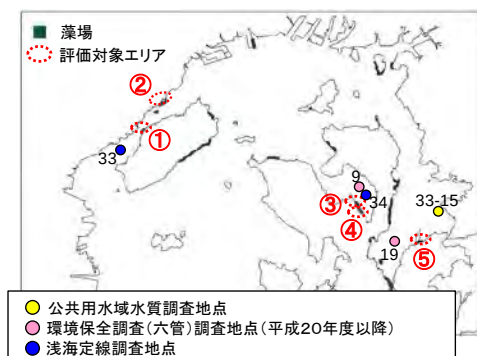
【状態指標】透明度 ※数値目標を設定



- ・平成24年は、
数値目標①(夏季透明度の最低値が1mを下回らないこと)、
数値目標②(年間平均透明度4m以上を維持すること)
ともに、全ての地点で目標値を満足。
- ・行動計画策定前(平成18年度)と比べると改善傾向。



透明度の数値目標①(夏季透明度の最低値が1mを下回らないこと)との比較



透明度の数値目標②(年間平均透明度4m以上を維持すること)との比較

※水環境は様々な要因で変動することから、必要なモニタリングは継続する。

【状態指標】 形態別の栄養塩類

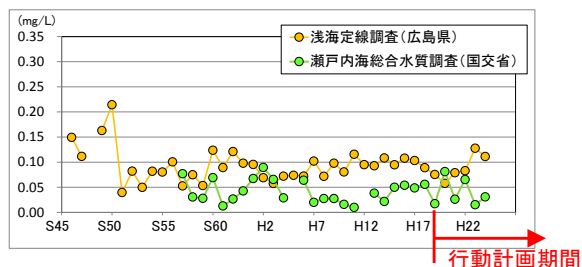


- ・下層DIPを除き、海水中の栄養塩濃度はほぼ横這いで推移。
- ・瀬戸内海総合水質調査(国交省)の下層DIPが近年増加傾向
→ただし、赤潮発生件数の増加などは見られないことから、
今後も引き続きモニタリングが必要。

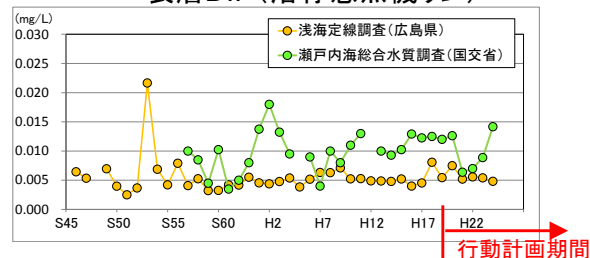


調査地点

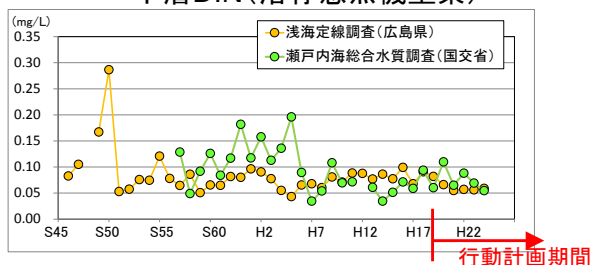
表層DIN(溶存態無機窒素)



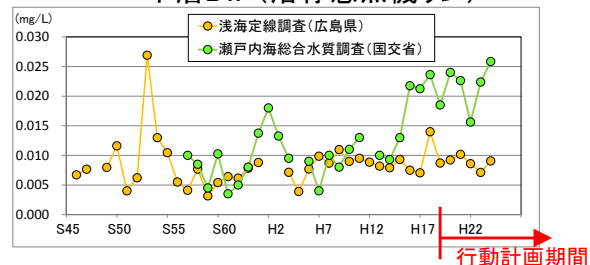
表層DIP(溶存態無機リン)



下層DIN(溶存態無機窒素)



下層DIP(溶存態無機リン)

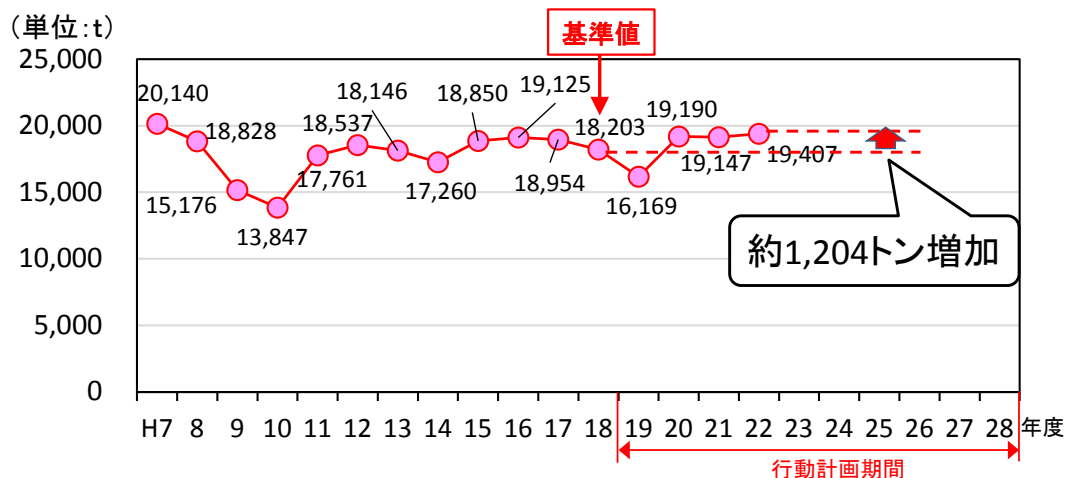


栄養塩類(DIN、DIP)の経年変化(全地点・年間平均値)

【状態指標】 かき収穫量



- ・かき収穫量:
平成18年度 18,203トン
平成22年度 19,407トン ※1,204トン増加(約2万トン前後に維持)



広島湾内のかき収穫量(むき身)の推移

出典) 広島農林水産統計年報

＜評価結果一覧表＞

- 下水道整備、森林の保全・整備は計画どおり進んでいる。
 - 底質改善パイロット事業は、目安を達成した。
 - 広島湾の水質状況は、赤潮、底層 DO ともに変動はあるものの改善傾向であり、透明度も目標を達成していることから、全体としては良好な方向に進んでいるが、経年的に見ると海田湾・呉湾の一部箇所では、底層 DO が低い時も見られる。
 - 広島湾の大きな特徴の一つであるかき養殖は、近年赤潮等による漁業被害を受けることもなく、収穫量も2万トン前後で維持されている。
- (課 題)
- 水環境は、様々な要因で変動することから、必要なモニタリングは継続する。

行動指標

行動指標	【目安】	計画策定時 (平成19年3月 末時点)	平成22年末時点	平成24年末時点	第1回中間評価結果 (目安達成状況) 平成22年度末	第2回中間評価結果 (目安達成状況) 平成24年度末
汚水処理人口普及率	約7%向上	77.9% (H17)	80.7% (H21)	82.4% (H24)	約2.8%向上 ○	約4.5%向上 ○
合流式下水道の改善	8地区改善	2地区改善実施中	1地区整備完了、 7地区事業実施中 (設計着手含む)	4地区整備完了 4地区事業実施中	1地区整備完了 7地区事業実施中 ○	4地区整備完了 4地区事業実施中 ○
下水道高度処理人口普及率	約13%向上	5.8% (H17)	15.3% (H21)	18.0% (H24)	約9.5%向上 ○	約12.2%向上 ○
森林の保全・整備状況	約14,000ha (H24～H28)	— H23年度より 行動指標に追加	— H23年度より 行動指標に追加	2.2千ha保全・整備 (H24)	—	H24年度1年間で約16%向上 ○
底質の改善 ※海田湾(アピールエリア)	パイロット事業の実施	—	H22年度に試験施工を完了(現在、モニタリング実施中)	H22年度に試験施工を完了(現在、モニタリング実施中)	パイロット事業完了(目安達成) ◎	パイロット事業完了(目安達成) ◎

※◎・・・現時点で目安を達成、 ○・・・着実に施策が進捗している、 △・・・目安の達成に向けてさらなる実施が必要

状態指標

状態指標	計画策定時 (平成19年3月末時点)	平成19～22年度	平成23～24年度	第1回中間評価結果 (平成22年度末)	第2回中間評価結果 (平成24年度末)
赤潮の発生状況	7件(H18) ※漁業被害0件	5件(H19) ※漁業被害0件 2件(H20) 〃 4件(H21) 〃 5件(H22) 〃	2件(H23) ※漁業被害0件 4件(H24) 〃	・2件減少(行動計画策定後、 漁業被害の発生無し) ➡	・3件減少(行動計画策定後、 漁業被害の発生無し) ➡
底層DO (数値目標:底層 DO=2mg/L)	13/25地点(H20)	14/25地点(H21) 25/25地点(H22)	25/25地点(H23) 17/25地点(H24)	・H22は数値目標を全ての地点で満足 ➡	・H24は25地点中17地点で満足(変動はあるものの改善傾向) ➡
透明度 (数値目標①:夏季透明度1m以上) (数値目標②:年間平均透明度4m以上)	数値目標①: 8/8地点(H18) 数値目標②: 3/3地点(H18)	数値目標①: 10/10地点(～H22) 数値目標②: 5/5地点(～H22)	数値目標①: 10/10地点(H23～H24) 数値目標②: 5/5地点(H23～H24)	・H18年度以降、全ての地点で数値目標①、②を満足 ➡	・H18年度以降、全ての地点で数値目標①、②を満足 ➡
形態別の栄養塩類	表層DIN:0.045～0.169mg/L 表層DIP:0.006～0.017mg/L 底層DIN:0.072～0.112mg/L 底層DIP:0.010～0.026mg/L(H18)	表層DIN:0.015～0.053mg/L 表層DIP:0.004～0.009mg/L 底層DIN:0.041～0.078mg/L 底層DIP:0.007～0.026mg/L(H21)	表層DIN:0.029～0.288mg/L 表層DIP:0.003～0.015mg/L 底層DIN:0.037～0.078mg/L 底層DIP:0.006～0.034mg/L(H24)	・下層DIPを除き、海水中の栄養塩濃度はほぼ横ばいで推移 ➡	・下層DIPを除き、海水中の栄養塩濃度はほぼ横ばいで推移 ➡
かき収穫量	18,203トン(H18)	16,169トン(H19) ➡ 19,190トン(H20) ➡	19,497トン(H21) ➡ 19,407トン(H22) ➡	・987トン増加 ➡	・1,204トン増加 ※約2万トン前後に維持 ➡

➡・・・状態が改善傾向、 ➡・・・状態が概ね維持されている、 ➡・・・状態の改善が必要

中間評価の結果

目標1：
森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな
広島湾を保全・再生する。
(生物生息・生産の場の保全・再生)

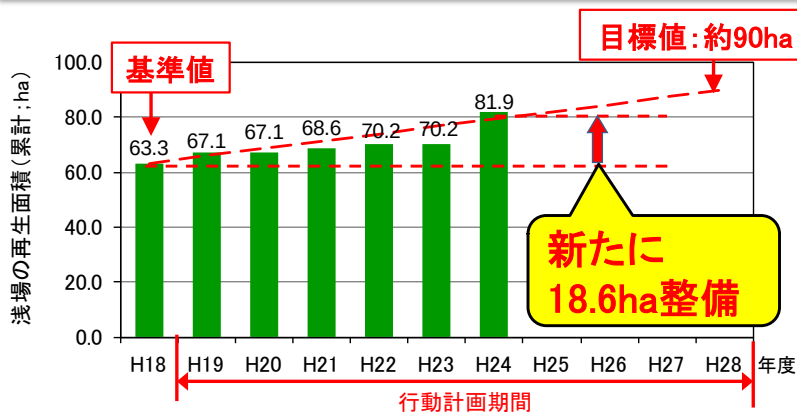
<評価項目>

行動指標【目標値】
干潟・藻場等の浅場の保全・再生面積【約 90ha 保全・再生】
生物の生息に配慮した環境配慮型構造物の延長【1,200m】
状態指標【目標値】
浅場等に生息する生物の種類数、個体数

【行動指標】干潟・藻場等の浅場の保全・再生面積 (目標値：約90ha保全・再生)



- ・新たに18.6haの浅場を整備。
- ・行動計画策定(平成18年度)までに整備完了の浅場とあわせ、81.9haの浅場の整備完了。



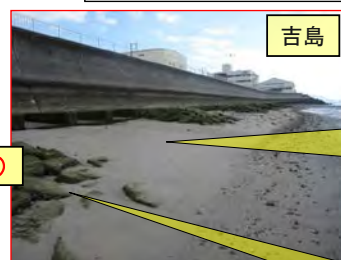
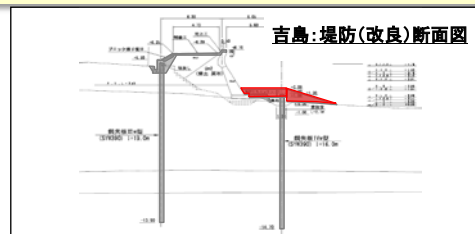
行動計画策定後、新たに整備した浅場面積(累計)

広島港五日市地区人工干潟の整備(広島県)

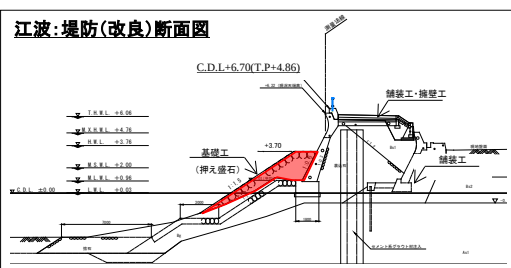
【行動指標】生物の生息に配慮した環境配慮型構造物の延長(目標値：1,200m)



- ・広島港海岸の中央西地区において、平成24年度末までに生物配慮護岸約940m整備完了。
- ・残り約400mについて、平成25年度に着工、平成27年度に完成予定。



旧太田川(本川)にて発生した砂質土を活用している。



流用材を利用した自然石の突堤及び覆砂を行い、海生生物の生息環境に配慮された構造となっている

自然石の石積を採用しており、海生生物の生息環境に配慮された構造となっている

※C.D.L(m)=T.P(m)+1.84m

広島港海岸における高潮対策護岸整備にあわせた生物配慮型護岸の整備
(中国地方整備局)

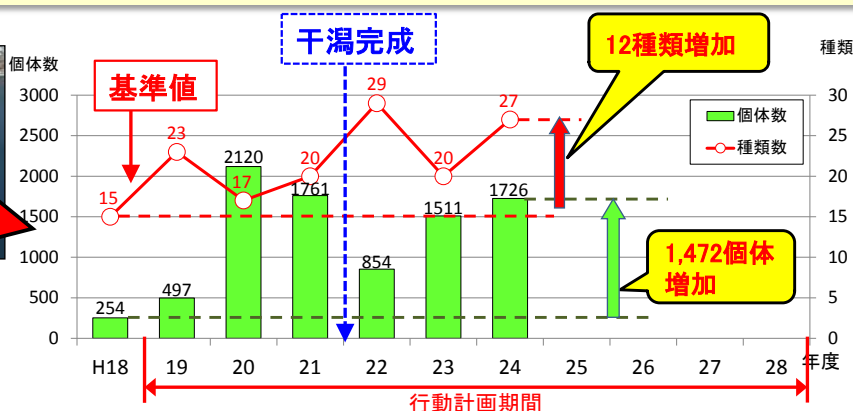
【状態指標】浅場等に生息する生物の種類数・個体数



- ・新たに造成した広島港五日市地区人工干潟における底生生物の種類数・個体数
種類数: 15種類(平成18年度)→27種類(平成24年度) ※12種類増加
個体数: 254個体(平成18年度)→1,726個体(平成24年度) ※1,472個体増加



広島港五日市地区人工干潟
(広島県)



広島港五日市地区人工干潟における底生生物の個体数・種類数の経年変化(年間平均)



スナガニ
レッドデータブックひろしま
(準絶滅危惧)



ハクセンシオマネキ
環境省レッドデータブック
(絶滅危惧II類)
レッドデータブックひろしま
(準絶滅危惧)

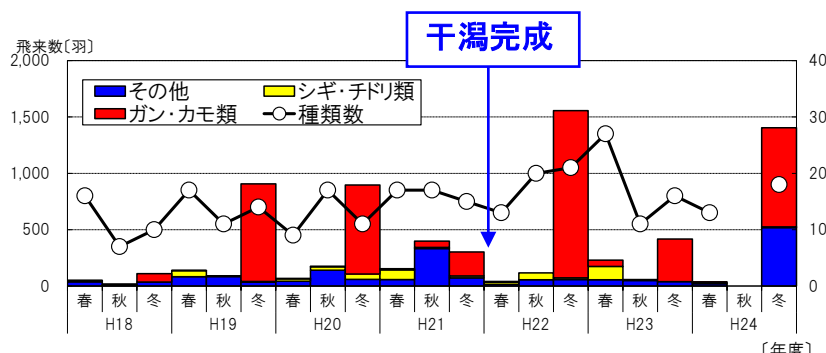


クチバガイ
環境省レッドデータブック
(準絶滅危惧)

過去の干潟の消滅や水質汚濁等で減少した生物が、人工干潟の造成により再び生息するようになった。

トピック

広島港五日市地区の人工干潟は、渡り鳥などの鳥類の生息場の創出を目的に造成され、近年、飛来する鳥類も増加しています。また、クロツラヘラサギなどの貴重な鳥類が飛来することもあります。



広島港五日市地区人工干潟における鳥類の飛来数の推移



世界的にも貴重な渡り鳥(世界で約2,000羽のみ生息)

環境省レッドデータブック
(絶滅危惧IA類)



野鳥の会や市民との連携による、人工干潟での探鳥会や清掃活動の開催



＜評価結果一覧表＞

○広島湾全体では、干潟・藻場の保全・再生及び生物に配慮した護岸等の整備が進んでいる。

○広島港五日市地区人工干潟のモニタリング結果によれば、生物の種類・個体数ともに大幅に増加しており、現在も維持している。

（課 題）

○現在は広島港五日市地区人工干潟のモニタリングを実施しているが、その他の干潟・藻場のモニタリングや干潟・藻場の保全・再生の取り組みを、地域の方々との連携も含め広げていく必要がある。

行動指標

行動指標	【目安】	計画策定時 (平成19年3月 末時点)	平成22年末時点	平成24年末時点	第1回中間評価結果 (目安達成状況) 平成22年度末		第2回中間評価結果 (目安達成状況) 平成24年度末	
干潟・藻場等の浅場の保全・再生面積	約90ha 保全・再生	整備完了面積 63.3ha (H18)	整備完了面積70.2ha	整備完了面積81.9ha	新たに6.9haの浅場を整備	△	新たに18.6haの浅場を整備	○
生物の生息に配慮した環境配慮型構造物の延長	1,200m	—	H22年度より広島港吉島地区の整備(200m)に着手	H24年度までに広島港海岸において生物配慮型護岸約940m整備完了	広島港吉島地区の整備(200m)に着手	○	広島港海岸において約940m整備完了	○

※…現時点で目安を達成、…着実に施策が進捗している、…目安の達成に向けてさらなる実施が必要

状態指標

状態指標	計画策定時 (平成19年3月末時点)	平成19～22年度	平成23～24年度	第1回中間評価結果 (平成22年度末)		第2回中間評価結果 (平成24年度末)	
浅場等に生息する生物の種類数・個体数	広島港五日市地区人工干潟: 種類数:15種類(H18) 個体数:254個体(H18)	広島港五日市地区人工干潟: 種類数:29種類(H22) 個体数:854個体(H22)	広島港五日市地区人工干潟: 種類数:27種類(H24) 個体数:1,726個体(H24)	・種類数:14種類増加 ・個体数:600個体増加		・種類数:12種類増加 ・個体数:1,472個体増加	

…状態が改善傾向、…状態が概ね維持されている、…状態の改善が必要

中間評価の結果

目標２：
人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を
再生する。

<評価項目>

行動指標【目標値】
野鳥園・緑地の整備箇所数【3箇所】
海洋性レクリエーション拠点の整備【1箇所】
新たに水辺に触れ合うことが出来る海岸線延長【1,200m】
地域住民との協働による護岸整備【広島港海岸での実施】
眺望点の整備、修復箇所数【2箇所】
環境教育・普及啓発活動【現状以上】
状態指標【目標値】
代表的な親水施設の利用状況
広島湾の保全・再生に関するシンポジウム、フォーラム等への参加人数
森林ボランティア等の参加状況
海洋レジャー客数の延べ人数
広島湾の環境保全・再生に関する住民等の意識
広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数

【行動指標】 野鳥園・緑地の整備箇所数（目標値：3箇所）



- ・緑地1箇所（大竹港東栄地区）整備完了（平成22年度）
- ・緑地1箇所、野鳥園1箇所の整備計画中



野鳥園・緑地の整備予定箇所
（目標値3箇所：野鳥園1箇所、緑地2箇所）

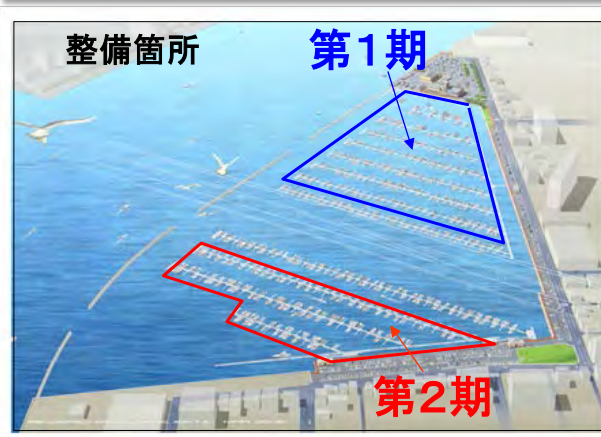


緑地の整備（駐車場、トイレ、植栽等）
大竹港東栄地区

【行動指標】 海洋性レクリエーション拠点の整備（目標値：1箇所）



- ・ボートパーク広島（平成19年度：1期）
→ 1箇所整備完了（目安達成）



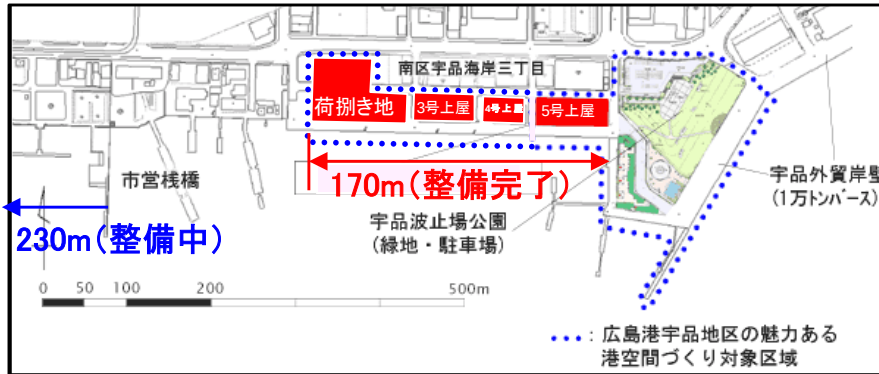
ボートパーク広島（広島港吉島地区）（広島県）

【行動指標】 新たに水辺に触れ合うことが出来る海岸線延長 (目標値：1,200m)



・905m整備完了、292m整備中(平成24年度末時点)

- ベイサイドビーチ坂 2期735m整備完了(平成23年度)
- 広島港宇品地区 170m整備完了(平成23年度)
- 広島港宇品地区 230m、久賀港久賀地区62m整備中(平成24年度末時点)



広島港宇品地区



親水護岸の整備
(久賀港久賀地区)(山口県)

【行動指標】 地域住民との協働による護岸整備 (目標値：広島港海岸での実施)



- ・広島港海岸中央西地区(ポートパーク広島区間)において地域住民とのワークショップを行い、平成23年4月に整備計画を策定。
- ・平成23年度現地着工し、現在整備中(平成27年度完成予定)。

広島湾の3つのアピールエリア



広島港海岸中央西地区(ポートパーク広島区間)
(アピールエリア太田川河口部～五日市)で地域住民
との協働による護岸整備を実施。

地域住民とのワークショップ



【行動指標】眺望点の整備、修復箇所数（目標値：2箇所）



- ・2箇所整備完了（目安達成）
 - 宮島の山火事跡地の修復完了（平成21年度）、
 - ポートパーク広島島の整備・供用開始（平成19年度：1期）
- ・新たに、宮島弥山展望休憩所を整備【環境省（広島県施行委任）】

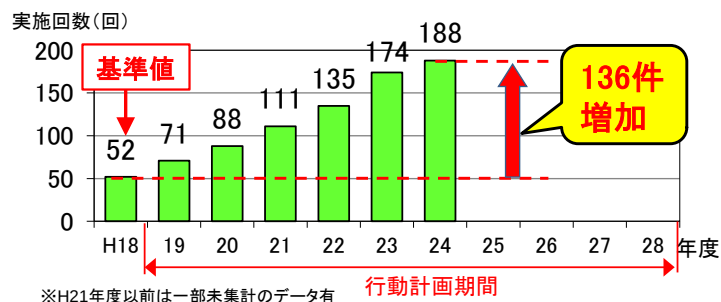


宮島弥山展望休憩所（平成25年11月完成）

【行動指標】環境教育・普及啓発活動（目標値：現状以上）



- ・環境教育・普及啓発活動の実施回数：
52回（平成18年度） → 188回（平成24年度） ※136回増加



環境教育・普及啓発活動の実施回数の推移



小学生を対象とした広島港見学会
（中国地方整備局）



広島市環境サポーター養成講座
（広島市）



宮島干潟の生き物観察会
（環境省中国四国地方環境事務所）

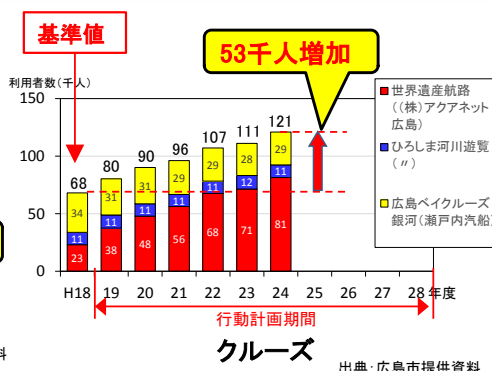
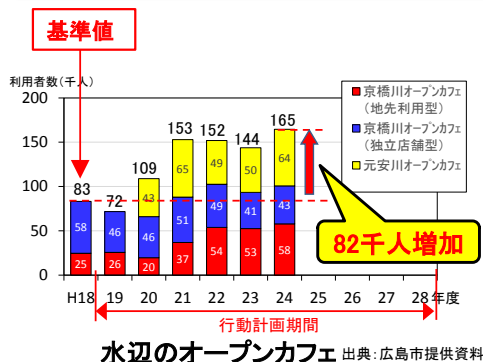


環境学習副読本の作成
（NPO、市民団体、行政が連携）

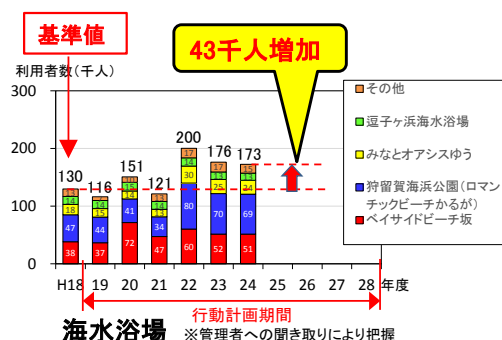
【状態指標】 代表的な親水施設の利用状況



- ・水辺のオープンカフェ：約83千人(平成18年度) → 約165千人(平成24年度) ※約82千人増加
- ・クルーズ：約68千人(平成18年度) → 約121千人(平成24年度) ※約53千人増加
- ・海水浴場：約130千人(平成18年度) → 約173千人(平成24年度) ※約43千人増加



クルーズ船(世界遺産航路:
平和記念公園～宮島)



親水施設等の利用者数

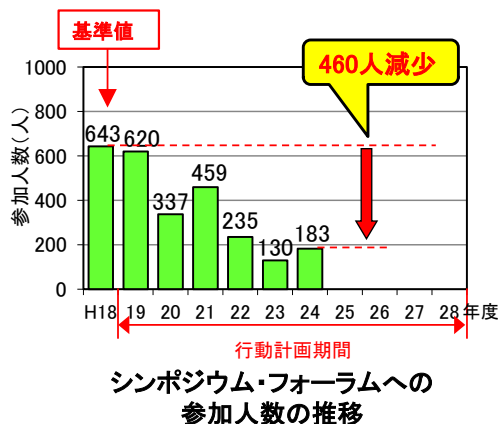
・京橋川オープンカフェは、平成17年度以降段階的に営業店舗が増加(平成16年度は計3店舗、平成17年度以降は計7店舗)しており、全体的には利用客が増加傾向。

・クルーズ船(世界遺産航路等)は、原爆ドーム、宮島への観光客の増加の影響が大きいと考えられる。

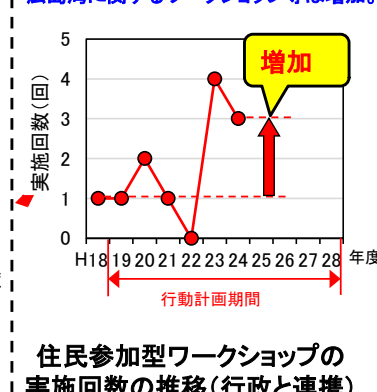
【状態指標】 広島湾の保全・再生に関するシンポジウム、フォーラム等への参加人数



- ・シンポジウム、フォーラム等への参加人数:
643人(平成18年度) → 183人(平成24年度) ※460人減少
- ・住民参加型ワークショップの実施回数:
1回(平成18年度) → 3回(平成24年度)



行政、またはNPOと行政の連携による
広島湾に関するワークショップ等は増加。



(これまで開催された主なシンポジウム等)

- 広島湾再生シンポジウム(H18～H19)
- 瀬戸内海環境シンポジウム(H18～H21)
- 広島湾研究会(H18～H24)
- 水環境ビジネスシンポジウム(H20)
- ひろしまの「川ガキ海っこ」育て隊(H20)
- 海の再生全国会議(H21)
- 江田島湾再生ジョイントシンポジウム(H21)
- 海の再生ニュービジネスシンポジウム(H22)
- ふるさとの川セミナー(H23～H24)
- 海洋産業関連フォーラム(H24)

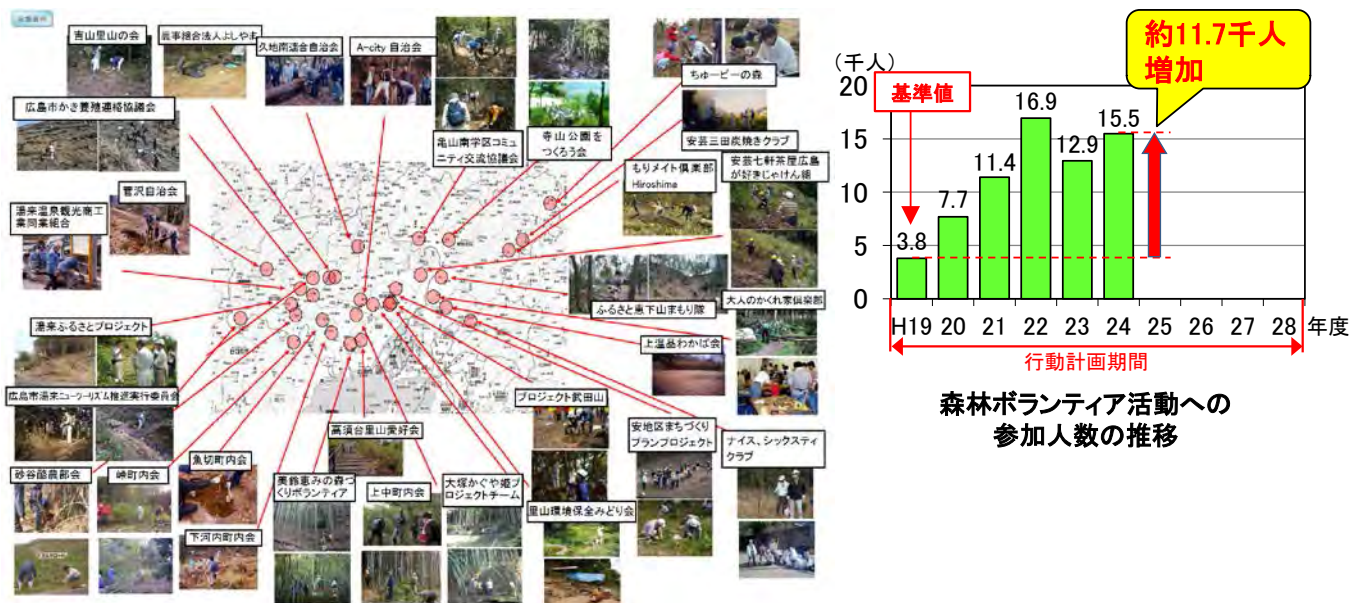
(これまでに開催された主な住民参加型ワークショップ)

- 海辺の自然学校(H18～H20)
- 広島湾魅力発見ミーティング(H20～H21)
- 学生によるみなと活用ワークショップ(H23～H24)
- 広島湾再生ワークショップ(H23～H24)
- ふるさとの川セミナー(H23～H24)

【状態指標】森林ボランティア等の参加状況

・森林ボランティアの参加人数：

約3.8千人（平成19年度） → 約15.5千人（平成24年度） ※約11.7千人増加

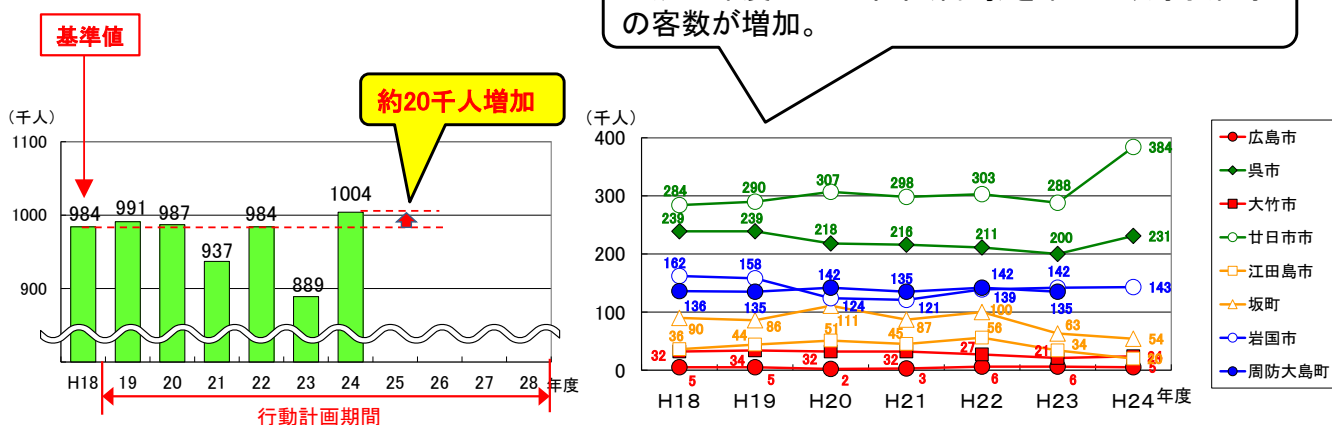


「ひろしまの森づくり県民税」を活用した市民団体による森林整備、森林環境教育への支援状況（広島市など）

【状態指標】海洋レジャー客数の延べ人数

・海洋レジャー客数の延べ人数：

約984千人（平成18年度） → 約1,004千人（平成24年度） ※約20千人増加



平成24年度は廿日市市（宮島）を中心に、海水浴等の客数が増加。

(1) 広島湾全体

(2) 市町村別

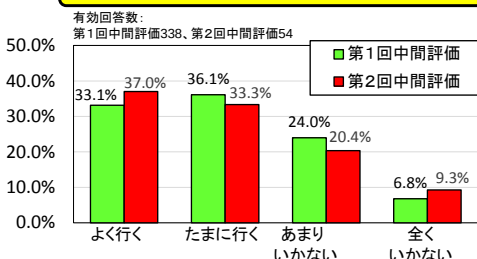
広島湾内の海洋レジャー客数（海水浴、釣り、潮干狩り）の推移

出典：広島県観光客数の動向（広島県）、山口県観光客動態調査（山口県）

【状態指標】 広島湾の環境保全・再生に関する住民等の意識

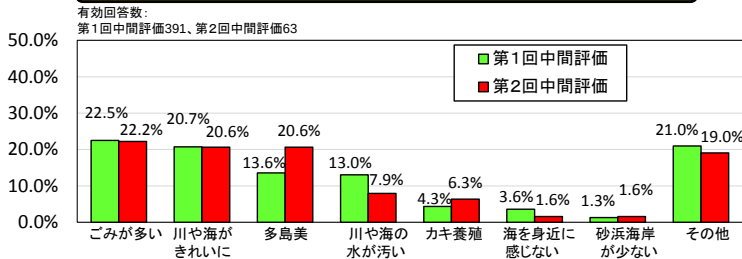
- ・広島湾の水辺をよく利用する方は1.1%増加
- ・「川や海の水が汚い」との印象は5.1%減少
- ・「水質の改善」を望む方は10.3%減少、ただし、「海岸のゴミを減らして欲しい」は7.3%増加

「よく行く」、「たまに行く」を合わせて1.1%増加



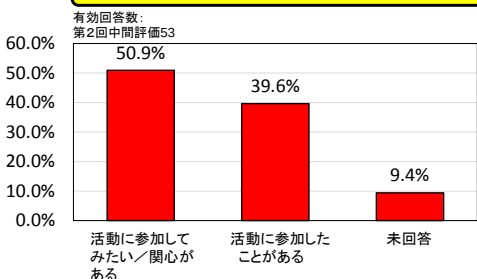
広島湾周辺で、海や川など、水辺を感じるところによく行くか？

「川や海の水が汚い」が5.1%減少、「多島美」が7.0%増加



広島湾の印象は？

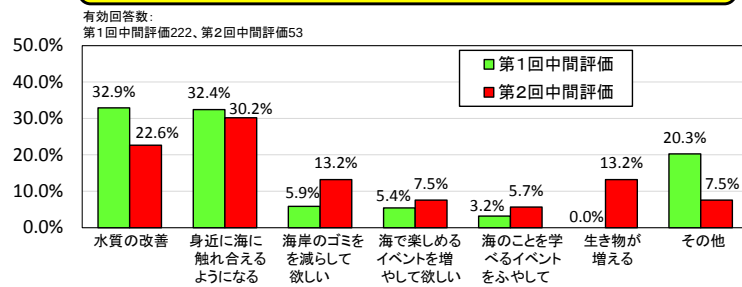
90%以上の方が関心あり



海の環境保全・美化活動等への参加に関心があるか？

※第2回中間評価時のみ実施

・「水質の改善」が10.3%減少、「海岸のゴミを減らして欲しい」が7.3%増加 ・イベントの開催を望む方が増加

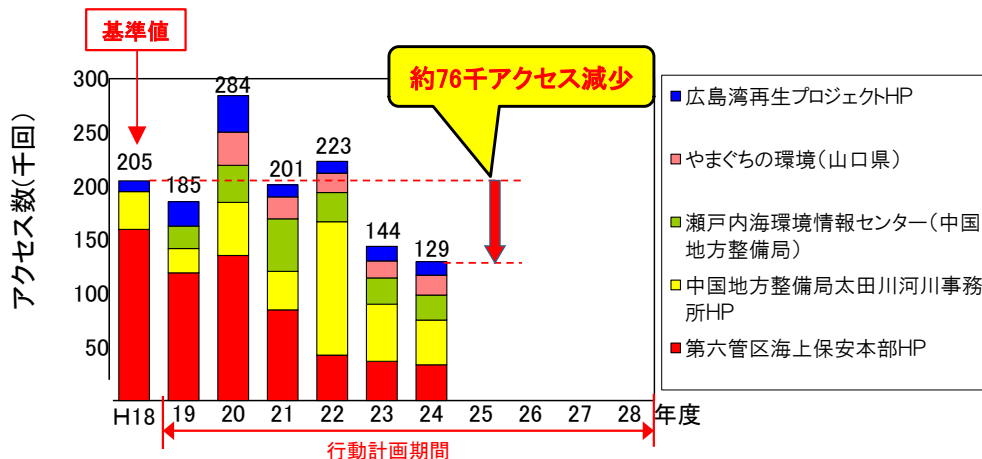


広島湾の海がどうなればいいと思うか？

アンケート結果(市民参加型イベント等において実施)

【状態指標】 広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数

- ・ホームページへのアクセス数：
約205千アクセス(平成18年度)
→ 約129千アクセス(平成24年度) ※約76千アクセス減少



広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページのアクセス数の推移

注) 広島県の環境情報サイト「ecoひろしま」は、平成24年度からアクセス数の集計方法が変わっており過去との比較ができないため上記集計からは除外した。(ただし、平成24年度は約1,242千アクセスを記録)

＜評価結果一覧表＞

○緑地、親水護岸、海洋性レクリエーション拠点などの親水空間の整備は計画どおり進んでいる。

○環境学習などの活動は、各関係機関、NPO 団体等が連携し取り組んだため着実に増加している。

○森林ボランティア等の参加人数も増加しており、市民の広島湾再生への関心も高まっている。

○海洋レジャー関係は、宮島へ向かう観光クルーズ船を中心に利用者数が増加している。オープンカフェの利用者数は、店舗数が増加した平成 20 年度に急増し、その後は店舗数が変化していないためほぼ横這いで推移している。

○広島湾の保全・再生に関するシンポジウム等の開催は減少している。 なお、近年は広島湾の水環境改善のためのワークショップ等を開催している。

(課 題)

○近年、ホームページのアクセス数やシンポジウム等への参加人数が伸び悩んでいることから、今後は、市民の関心を高めるよう、広島湾の保全・再生のための活動を広く知ってもらう取り組みについて検討が必要である。

行動指標

行動指標	【目安】	計画策定時 (平成19年3月 末時点)	平成22年末時点	平成24年末時点	第1回中間評価結果 (目安達成状況) 平成22年度末		第2回中間評価結果 (目安達成状況) 平成24年度末	
野鳥園・緑地の整備箇所数	3箇所	—	緑地1箇所整備完了(大竹港東栄地区)	緑地1箇所整備完了(大竹港東栄地区)	1箇所整備完了	○	1箇所整備完了 2箇所計画中	○
海洋性レクリエーション拠点の整備	1箇所	—	ボートパーク広島(1期)の整備完了・供用開始	ボートパーク広島(1期)の整備完了・供用開始	1箇所整備完了(目安達成)	◎	1箇所整備完了(目安達成)	◎
新たに水辺に触れ合うことが出来る海岸線延長	1,200m	—	ベイスайдビーチ坂(2期)735m整備完了、山口県久賀港62m整備中	ベイスайдビーチ坂(2期)735m、広島港宇品地区170m整備完了、広島港宇品地区230m、山口県久賀港62m整備中	735m整備完了 62m整備中	○	905m整備完了 292m整備中	○
地域住民との協働による護岸整備	広島港海岸での実施	—	—	—	海田湾での護岸整備に向けた設計実施予定	△	広島港海岸中央西地区で護岸整備中(目安達成) ^{注)}	◎
眺望点の整備、修復箇所数	2箇所	—	2箇所整備完了(ボートパーク広島、宮島山火事跡地)	2箇所整備完了(ボートパーク広島、宮島山火事跡地) 1箇所整備中(宮島 弥山展望台)	2箇所整備完了(目安達成)	◎	2箇所整備完了(目安達成) さらに眺望点1箇所整備	◎
環境教育・普及啓発活動	現状以上	52回 (H18)	135回	188回	83回増加	◎	136回増加	◎

※◎・・・現時点で目安を達成、 ○・・・着実に施策が進捗している、 △・・・目安の達成に向けてさらなる実施が必要

注) 広島港海岸の整備区間において、地域住民からの要望が強く、住民が整備計画に参画して整備する区間であり、評価箇所を変更 (H23.4 整備計画策定、H23.8 現地着工)

状態指標

状態指標	計画策定時 (平成19年3月末時点)	平成19～22年度	平成23～24年度	第1回中間評価結果 (平成22年度末)		第2回中間評価結果 (平成24年度末)	
代表的な親水施設の利用状況	オープンカフェ: 約83千人(H18) クルーズ: 約68千人(H18) 海水浴: 約130千人(H18)	オープンカフェ: 約153千人(H21) クルーズ: 約96千人(H21) 海水浴: 約121千人(H21)	オープンカフェ: 約165千人(H24) クルーズ: 約121千人(H24) 海水浴: 約173千人(H24)	オープンカフェ: ・約70千人増加 クルーズ: ・約28千人増加 海水浴: ・約9千人減少	→	オープンカフェ: ・約82千人増加 クルーズ: ・約53千人増加 海水浴: ・約43千人増加	↗
広島湾の保全・再生に関するシンポジウム、フォーラム等への参加人数	643人(H18)	620人(H19) ↘ 337人(H20) ↘ 459人(H21) ↘ 235人(H22) ↘	130人(H23) ↘ 183人(H24) ↘ ※住民参加型ワークショップは1回(H18)から3回(H24)に増加	・408人減少	↘	・460人減少 ・住民参加型ワークショップは2回増加	↘
森林ボランティア等の参加状況	約3.8千人(H19)	約7.7千人(H20) ↗ 約11.4千人(H21) ↗ 約16.9千人(H22) ↗	約12.9千人(H23) ↗ 約15.5千人(H24) ↗	・約13.1千人増加	↗	・約11.7千人増加	↗
海洋レジャー客数の延べ人数	約984千人(H18)	約991千人(H19) ↗ 約987千人(H20) ↗ 約937千人(H21) ↘	約984千人(H22) → 約889千人(H23) ↘ 約1,004千人(H24) ↗	・約47千人減少	→	・約20千人増加	↗
広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数	約205千アクセス(H18)	約185千アクセス(H19) ↘ 約284千アクセス(H20) ↗ 約201千アクセス(H21) ↘ 約223千アクセス(H22) ↗	約144千アクセス(H23) ↘ 約129千アクセス(H24) ↘	・約18千アクセス増加	↗	・約76千アクセス減少	↘

↗・・・状態が改善傾向、 →・・・状態が概ね維持されている、 ↘・・・状態の改善が必要

評価時期：

平成18年度末(行動計画策定前)を基準として、平成24年度末時点を対象に評価を実施。

中間評価の結果

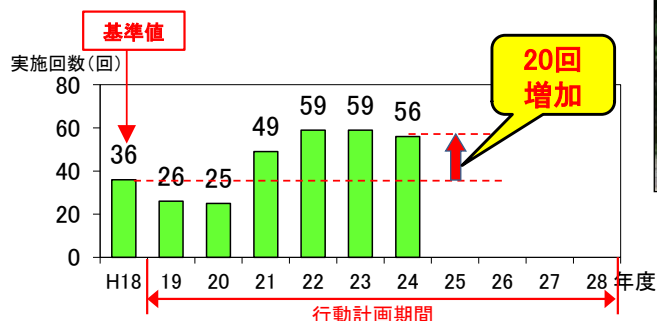
目標3：
宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、
美しい広島湾を保全する。

<評価項目>

行動指標【目標値】
住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施【現状以上】
市民連携による清掃活動等の参加人数【現状以上】
状態指標【目標値】
自然景観、歴史・文化的資源の保全状況
観光地(自然景観、歴史・文化的資源)への年間入込客数

【行動指標】 住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施（目標値：現状以上）

- ・取り組み実施回数：
36回（平成18年度） → 56回（平成24年度） ※20回増加



住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施回数の推移



ごみ持ち帰り啓発活動



「入浜」の観測、生き物調査
宮島地区パークボランティアによる活動



体験クルーズ

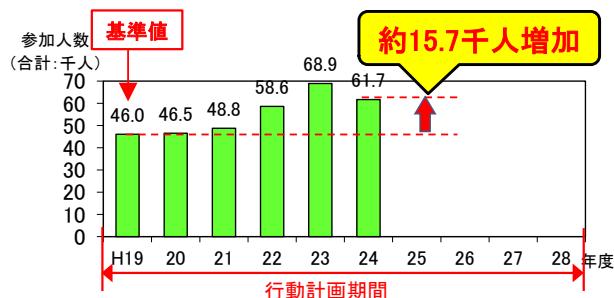


グループミーティング

広島湾の魅力と課題を語るワークショップの開催
（広島湾再生推進会議 主催）

【行動指標】 市民連携による清掃活動等の参加人数

- ・市民連携による清掃美化活動への参加人数：
約46千人（平成19年度）→約61.7千人（平成24年度） ※約15.7千人増加



市民連携による清掃美化活動への参加人数



「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動（瀬戸内・海之路ネットワーク推進協議会等）



ごみの組成調査



「クリーン太田川」清掃活動
（クリーン太田川実行委員会）

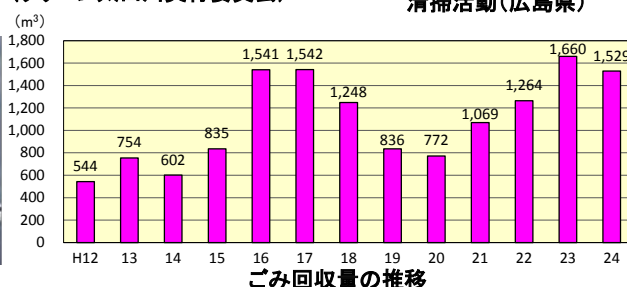


広島県ラブリバー認定団体による
清掃活動（広島県）



「おんど2000」

海面清掃船「おんど2000」による海面浮遊ごみの回収



ごみ回収量の推移

【状態指標】 自然景観、歴史・文化的資源の保全状況



- ・広島湾の代表的な自然景観、歴史・文化的資源が存在する場所では、NPOや市民ボランティアの清掃活動により、美しい状態で維持されているところが多い。
- ・ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等の問題が見られる。



調査地点

<調査地点の選定理由>

- | | |
|---|---|
| <p>① 厳島神社大鳥居付近
・・・アオサによる干潟の劣化が考えられる。</p> <p>② 原爆ドーム周辺(元安川親水護岸等)
・・・河川敷でのごみや親水テラスでのアオサの発生などによる景観等への影響が考えられる。</p> <p>③ 元宇品周辺
・・・ほぼ全域が瀬戸内海国立公園区域であり、貴重な原生林や自然海岸が残っているが、漂着ごみ等による砂浜の劣化や原生林の劣化が考えられる。</p> | <p>④ 厳島南部の自然海岸(腰細浦等)
・・・自然海岸が多く残っているが、漂着ごみや台風等による砂浜の劣化が考えられる。</p> <p>⑤ 江田島市周辺の自然海岸
・・・自然海岸が多く残っているが、漂着ごみや台風等による砂浜の劣化が考えられる。</p> <p>⑥ 廿日市市周辺の自然海岸(大野町鳴川海岸)
・・・広島湾沿岸部に存在する長い自然海岸。漂着ごみ等による砂浜の劣化が考えられる。</p> |
|---|---|

<観光地>

①厳島神社大鳥居付近



・大鳥居付近では、神社や地域住民の清掃活動により、美しい景観が維持されている。

<自然海岸>

④厳島南部の自然海岸(腰細浦等)



・地域住民、NPO等の清掃活動により、美しい海岸が維持されている。

②原爆ドーム周辺(元安川親水護岸等)



・行政、地域住民、NPO等の清掃活動により、美しい景観が維持されている。

⑤江田島市周辺の自然海岸



・管理者により、美しい海岸が維持されている。

③元宇品周辺



・貴重な原生林、自然海岸など豊かな自然に恵まれた場所である。
・行政や地域住民により、美しい自然海岸としての管理が行われている。

⑥廿日市市周辺の自然海岸(大野町鳴川海岸)



・美しい海岸が維持されている。

代表的な自然景観、歴史・文化的資源の保全状況



海岸での漂着ごみの状況(ごみ回収前)

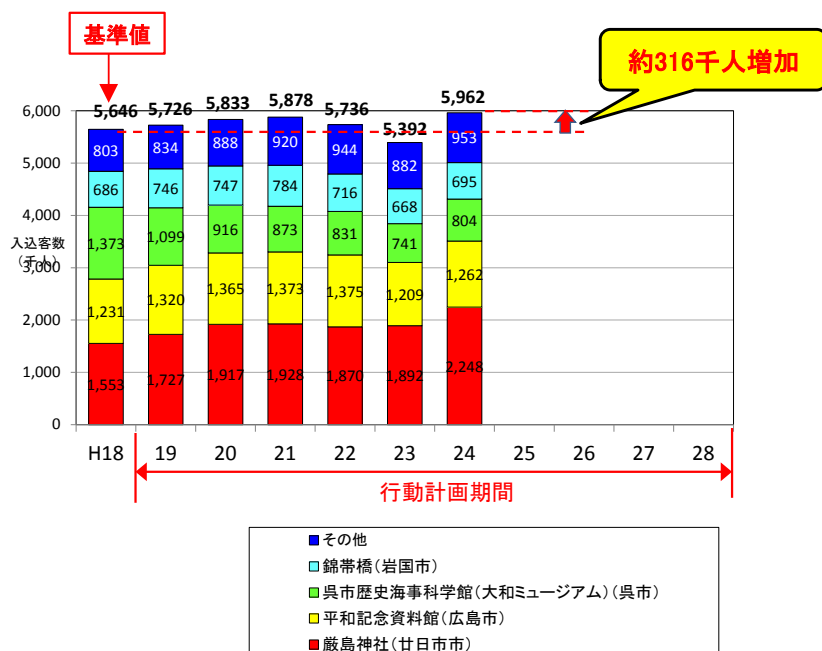
【状態指標】観光地（自然景観、歴史・文化的資源）への年間入込客数



・約5,646千人（平成18年度） → 約5,962千人（平成24年度） ※約316千人増加



代表的な観光地（自然景観、歴史・文化的資源）の場所



代表的な観光地（自然景観、歴史・文化的資源）への年間入込客数の推移

出典：広島県観光客数の動向（広島県）、山口県観光客動態調査（山口県）

＜評価結果一覧表＞

- 住民参加による自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みが増加し維持している。
 - 市民連携による清掃活動等の参加人数は増加している。
 - 広島湾周辺の観光地の年間入込客数は平成23年度に震災の影響で減少したものの、平成24年度は再び増加している。
- (課 題)
- 観光地では景観等が適切に管理されているが、ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等に対応するため、継続的な広島湾の保全の取り組みが必要である。

行動指標

行動指標	【目安】	計画策定時 (平成19年3月末時点)	平成22年末時点	平成24年末時点	第1回中間評価結果 (目安達成状況) 平成22年度末	第2回中間評価結果 (目安達成状況) 平成24年度末
住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施	現状以上	36回 (H18)	59回	56回	23回増加	20回増加
市民連携による清掃活動等の参加人数	現状以上	46千人 (H19)	58.6千人	61.7千人	12.6千人増加	15.7千人増加

※…現時点で目安を達成、…着実に施策が進捗している、…目安の達成に向けてさらなる実施が必要

状態指標

状態指標	計画策定時 (平成19年3月末時点)	平成19～22年度	平成23～24年度	第1回中間評価結果 (平成22年度末)	第2回中間評価結果 (平成24年度末)
自然景観、歴史・文化的資源の保全状況	—	H22年度に、広島湾内の代表的な場所で漂着ごみや海岸劣化状況の調査を実施。	※調査実施予定	・美しい海岸が維持されている場所が多い ・ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等の問題が見られる。	・美しい海岸が維持されている場所が多い ・ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等の問題が見られる。
観光地(自然景観、歴史・文化的資源)への年間入込客数	約5,646千人(H18)	約5,726千人(H19) 約5,833千人(H20) 約5,878千人(H21)	約5,736千人(H22) 約5,392千人(H23) 約5,962千人(H24)	・約232千人増加	・約316千人増加

…状態が改善傾向、…状態が概ね維持されている、…状態の改善が必要

評価時期：

平成18年度末(行動計画策定前)を基準として、平成24年度末時点を対象に評価を実施。

広島湾再生行動計画 第2回中間評価

パブリックコメント結果

1. パブリックコメントの実施概要

広島湾再生推進会議では、広島湾の保全・再生を推進する「広島湾再生行動計画」に基づいた関係機関の取り組みの状況と、広島湾の再生状況について、第2回中間評価を実施した。

この中間評価の結果について、広く地域の方々のご意見をいただき、今後のフォローアップに反映するため、パブリックコメントを募集した。

(1) 募集期間 : 平成26年2月4日(火)～2月28日(金)

(2) パブリックコメント実施方法:

①広島湾再生プロジェクトホームページ上に専用ページを作成し、ホームページから回答を送信していただく方式とした。

②広島湾再生行動計画の目標ごとに、「妥当な結果である」、「ある程度妥当な結果である」、「どちらとも言えない」、「あまり妥当ではなく、改善が必要である」、「妥当ではなく、改善が必要である」の5つの選択肢から1つを選び回答してもらうとともに、その理由について記述してもらう方式とした。

(3) 意見提出者数 : 1人

2. パブリックコメント資料

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

「広島湾再生行動計画」について

アンケートを開始する前に、「広島湾再生行動計画」について説明しますので、最初に以下の画像をご覧ください。

以下の画像をクリックすると、大きな画像をご覧になれます。

広島湾再生行動計画について

広島湾について
広島湾は約5000ヘクタールの面積があり、約3743平方メートルの面積を有しています。また、広島湾は、広島市と山口県との約42%にあたる約180万人が生活しています。

広島湾の現状
広島湾は、長年にわたる開発により、自然環境が著しく破壊されています。また、湾内には、約1000ヘクタールの埋立地があり、約1000ヘクタールの埋立地が、約1000ヘクタールの埋立地となっています。

広島湾再生行動計画の目的
広島湾の良好な環境の再生を目的として、行政や地域住民が連携して湾内環境の保全・再生に関する取り組みを総合的に推進するための「広島湾再生行動計画」を策定しました。

広島湾再生行動計画における目標
森・川・海の豊かな繋がりを活かし、暮らし豊かで美しく、親しみやすい「広島湾」を保全・再生し、次世代へ継承する。

1 森・川・海の豊かな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。
様々な利用に適した水環境の再生を、森・川・海のつながりを活かして進めています。また、生物の生息の場である干潟・藻場などの生態系もできる限り保全・再生していきます。

2 人と海の繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。
魅力ある親水空間の創出や、親水空間の利用を活性化することで、広島湾に対する人々の関心を高め、広島湾の保全・再生に積極的に参加できるような環境を目指します。

3 広島などの魅力ある自然環境、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。
広島湾に存在する自然環境をはじめとする貴重な自然環境、歴史・文化の資源を活用し、地域に連携して保全し、美しい広島湾を次世代へ継承していくことを目指します。

計画期間（平成28年度までの10年間）
計画期間（平成28年度までの10年間）

計画期間（平成28年度までの10年間）
計画期間（平成28年度までの10年間）

「広島湾再生行動計画」に関するより詳しい説明は、以下のホームページでご見頂けます。
→ [リンク](#)

次に進み、アンケートを開始する

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

質問 1 > 質問 2 > 質問 3 > 質問 4 > 質問 5 > 確認

中間評価結果について（1）

広島湾再生行動計画の目標1-1「森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。（水環境の再生）」に関する中間評価の結果は、以下の画像のとおりです。画像をご覧頂いてから、質問にご回答ください。

以下の画像をクリックすると、大きな画像をご覧いただけます。



中間評価結果に関するより詳しい説明は、以下のホームページでご覧頂けます。

[→ リンク](#)

Q 1 中間評価（目標1-1）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について、どう思われますか。【必須】

- ☐ 1. 妥当な結果である。
- ☐ 2. ある程度妥当な結果である。
- ☐ 3. どちらともいえない。
- ☐ 4. あまり妥当ではなく、改善が必要である。
- ☐ 5. 妥当ではなく、改善が必要である。

Q 2 Q 1でそのように思われた理由を以下に記載してください。【自由回答】

次へ進む

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

質問 1 > 質問 2 > 質問 3 > 質問 4 > 質問 5 > 確認

中間評価結果について（2）

広島湾再生行動計画の目標1-2「森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。（生物の生息・生産の場の保全・再生）」に関する中間評価の結果は、以下の画像のとおりです。画像をご覧頂いてから、質問にご回答ください。

以下の画像をクリックすると、大きな画像をご覧いただけます。



中間評価結果に関するより詳しい説明は、以下のホームページでご覧頂けます。

[→ リンク](#)

Q 3 中間評価（目標1-2）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について、どう思われますか。【必須】

- ☐ 1. 妥当な結果である。
- ☐ 2. ある程度妥当な結果である。
- ☐ 3. どちらともいえない。
- ☐ 4. あまり妥当ではなく、改善が必要である。
- ☐ 5. 妥当ではなく、改善が必要である。

Q 4 Q 3 でそのように思われた理由を以下に記載してください。【自由回答】

前へ戻る

次へ進む

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

質問1 > 質問2 > **質問3** > 質問4 > 質問5 > 確認

中間評価結果について（3）

広島湾再生行動計画の目標2「人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。」に関する中間評価の結果は、以下の画像のとおりです。画像をご覧頂いてから、質問にご回答ください。

以下の画像をクリックすると、大きな画像をご覧になれます。



中間評価結果に関するより詳しい説明は、以下のホームページでご覧頂けます。

→ [リンク](#)

Q 5 中間評価（目標2）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について、どう思われますか【必須】

- ☐ 1. 妥当な結果である。
- ☐ 2. ある程度妥当な結果である。
- ☐ 3. どちらともいえない。
- ☐ 4. あまり妥当ではなく、改善が必要である。
- ☐ 5. 妥当ではなく、改善が必要である。

Q 6 Q 5 でそのように思われた理由を以下に記載してください。【自由回答】

前へ戻る

次へ進む

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

質問 1

質問 2

質問 3

質問 4

質問 5

確認

中間評価結果について（４）

広島湾再生行動計画の目標３「宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。」に関する中間評価の結果は、以下の画像のとおりです。画像をご覧頂いてから、質問にご回答ください。

以下の画像をクリックすると、大きな画像をご覧になれます。



中間評価結果に関するより詳しい説明は、以下のホームページでご覧頂けます。

[→ リンク](#)

Q 7 中間評価（目標３）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について、どう思われますか【必須】

- ☐ 1. 妥当な結果である。
- ☐ 2. ある程度妥当な結果である。
- ☐ 3. どちらともいえない。
- ☐ 4. あまり妥当ではなく、改善が必要である。
- ☐ 5. 妥当ではなく、改善が必要である。

Q 8 Q 7でそのように思われた理由を以下に記載してください。【自由回答】

前へ戻る

次へ進む

「広島湾再生行動計画の中間評価結果について」 のパブリックコメント（意見募集）

質問 1 > 質問 2 > 質問 3 > 質問 4 > 質問 5 > 確認

回答者の属性等について

最後に、以下の質問についてご回答ください。

Q 9. あなたについてお答えください。【必須】

1.性別
☐ 男性
☐ 女性

2.年齢
☐ 20歳未満
☐ 20歳以上30歳未満
☐ 30歳以上40歳未満
☐ 40歳以上50歳未満
☐ 50歳以上60歳未満
☐ 60歳以上

3.住所

※市町村（政令市は区）までご記入ください。

4.職業
☐ 公務員
☐ 会社員
☐ 自営業
☐ 学生
☐ その他

Q 10 「広島湾再生行動計画」をご存じでしたか？【必須】

- ☐ 1. よく知っている。
- ☐ 2. 聞いたことはある。
- ☐ 3. 知らなかった。

Q 11 その他、広島湾再生行動計画に関する要望や、中間評価結果に関する意見等がございましたら、ご自由にお書き下さい。【自由回答】

前へ戻る

以上の内容で、アンケートを登録する

広島湾再生行動計画について

広島湾について

広島湾は流域の面積が 3,743 平方キロメートル、海域の面積が 1,043 平方キロメートルの閉鎖性の海域です。流域人口は、広島県と山口県の約 42%にあたる約 180 万人となっています。



広島湾の課題

水環境の課題

北部海域では、夏季に**有害プランクトンによる赤潮**や、海底付近の酸素が無くなる**貧酸素水塊***が発生しています。

※貧酸素水塊（ひんさんすいかい）・・・酸素濃度が低下した海水の塊が広い範囲に発生している状態のことで、海底に住む生物に悪影響を及ぼします。

生物生息環境の課題

生物の生息にとって重要な**干潟や藻場などの浅場が、北部海域では特に減少しています。**

〈干潟面積の推移〉



〈藻場面積の推移〉



親水空間と水辺の触れ合い機会の課題

沿岸部では**親水空間が減少**しており、島しょ部などでは、**海との触れ合いを目的とした観光客が減少**しています。

自然・歴史・文化に関する課題

海面や海岸の**漂着ごみにより、自然景観の悪化が懸念**されています。

広島湾再生行動計画の目標

広島湾の良好な環境の再生を目指して、行政や地域住民が連携して環境保全・再生に関する取り組みを総合的に推進するための「**広島湾再生行動計画**」を策定しました。

広島湾再生行動計画では、行政や地域住民が連携して広島湾の保全・再生を進めるため、**以下の目標を設定しました。**

広島湾再生行動計画における目標

森・川・海の健やかな繋がりを活かし、恵み豊かで美しく親しみやすい「広島湾」を保全・再生し、次世代へ継承する。

1 森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。

様々な利用に適した水環境の再生を、森・川・海の対策が連携して進めていきます。また、生物の生息の場である干潟・藻場などの浅場もできる限り保全・再生していきます。



人工林の間伐
(北広島町)



下水道における高度処理の推進
(太田川流域下水道東部浄化センター)

2 人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

魅力ある親水空間の創出や、親水空間の利用を活性化することで、広島湾に対する人々の関心を高め、広島湾の保全・再生に積極的に参加できるような環境を目指します。



水の都ひろしまづくりの推進
(京橋川オープンカフェ)



新たな親水空間の整備
(宇品デポルトピア)

3 宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

広島湾に存在する宮島をはじめとする豊富な自然景観、歴史・文化的資源を活用しつつ、地域と連携して保全し、美しい広島湾を次世代へ継承していくことを目指します。



清掃船によるごみ回収
(海面清掃船「おんど 2000」)



市民参加による清掃美化活動の推進
(「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動)

広島湾再生行動計画策定（平成 19 年 3 月）

第 1 回中間評価（平成 22 年度実施）

第 2 回中間評価（平成 25 年度実施）

計画期間（平成 28 年度までの 10 年間）

中間評価の実施方法

これまでの取り組み

・・・取り組みの進捗状況を評価。

広島湾の状態

・・・広島湾の保全・再生状況を評価。

評価時期：平成 18 年度末（行動計画策定前）を基準として、平成 24 年度末時点を対象に評価を実施。

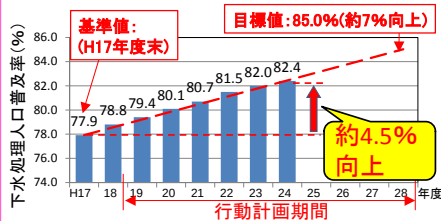
広島湾再生行動計画の第2回中間評価の結果（概要）

目標1-1：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。 （水環境の再生）

これまでの取り組み

汚水処理対策

行動計画に沿って、下水道整備や合流式下水道の改善（雨水滞水池の整備等）が進んでいます。



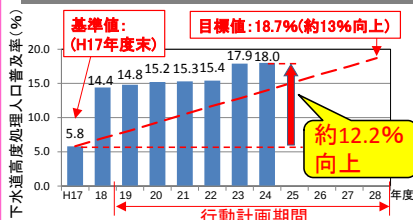
下水処理人口普及率の推移



大竹処理区 雨水滞水池

下水道の高度処理化

行動計画に沿って、高度処理化が進んでいます。



下水道高度処理人口普及率の推移



太田川流域下水道東部浄化センターにおける高度処理の導入推進（広島県）

底質（ヘドロ）の改善

海田湾における石炭灰造粒物を用いた底質改善実験が完了し、海底付近の溶存酸素の増加や生物生態環境の改善など、一定の効果が確認されました。



底質改善実験箇所



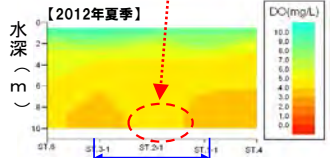
底質改善のイメージ

魚の餌となる底生生物が増加

実証試験区で海底の酸素が増加



イシガニ



実証試験区周辺の溶存酸素（DO）の分布

石炭灰造粒物を用いた海底の底質の改善実験（中国地方整備局）

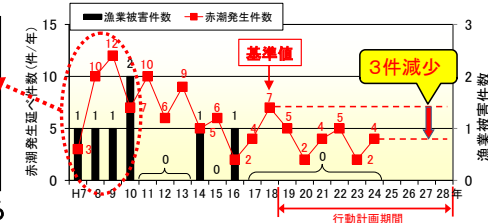
広島湾の状態

赤潮の発生状況

発生件数は減少傾向で、行動計画策定後は漁業被害も発生していません。



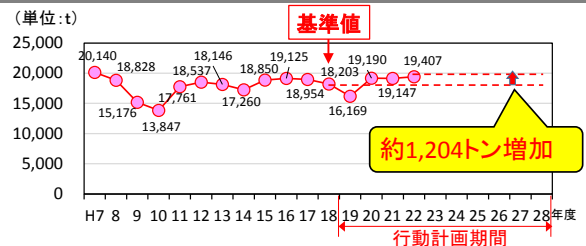
ヘテロカプサ赤潮による漁業被害（平成7～10年頃）



赤潮発生件数、漁業被害件数の推移

かき収穫量

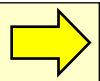
最近では漁業被害を受けることなく、収穫量も2万t前後に維持されています。



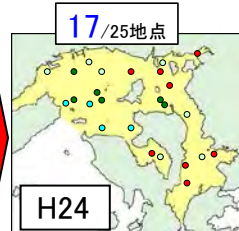
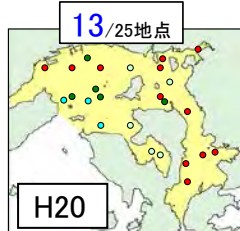
かき収穫量（むき身）の推移

底層DO

目標値（2mg/L）を満足する地点は、25地点中17地点でした（平成24年度）。



夏季底層DOの最低値：
● 5mg/L以上
● 4mg/L以上～5mg/L未満
● 3mg/L以上～4mg/L未満
● 2mg/L以上～3mg/L未満
● 2mg/L未満
目標値：2mg/L以上

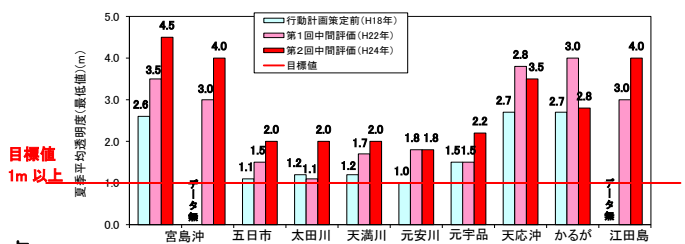


底層DO（海底付近の酸素量）の目標値（2mg/L）を満足する地点

※底層DOが2mg/Lを下回ると、ほとんどの生物が死滅するとされています。

親水空間周辺の透明度

全ての地点で、目標値（夏季透明度1m以上）を満足していました。



透明度の目標値（夏季透明度1m以上）を満足する地点

評価

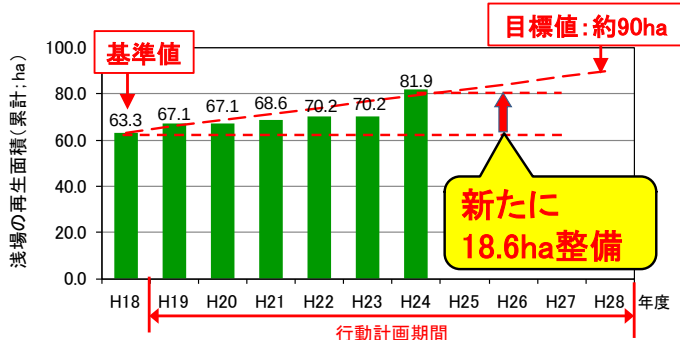
- 下水道整備、森林の保全・整備は計画どおり進んでおり、海田湾の底質改善パイロット事業は完了しました。
- 広島湾の水質は、赤潮、底層DOともに変動はあるものの改善傾向であり、透明度も目標を達成していることから、**全体としては良好な方向に進んでいます。**
- 広島湾の特徴であるかき養殖は、近年赤潮等による漁業被害もなく、**収穫量も2万t前後で維持されています。**
- 水環境は、様々な要因で変動することから、**必要なモニタリングは継続していきます。**

目標1-2：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。 (生物生息・生産の場の保全・再生)

これまでの取り組み

干潟・藻場等の保全・再生面積

平成24年度までに81.9haの干潟・藻場の整備が完了しています。



干潟・藻場の再生面積の推移



整備前



整備後

広島港五日市地区人工干潟の整備 (広島県)

生物に配慮した護岸等の整備

広島港海岸において、平成24年度末までに目標1,200mのうち940mの整備が完了しています。



【吉島】護岸の前面に石積の突堤や潮だまり、盛砂などを施すことで、多様な生物がすめる場所を新たに創出しました。

【江波】護岸に自然石の石積を採用し、海生生物の生息環境に配慮しました。

施工後の状況 (吉島)

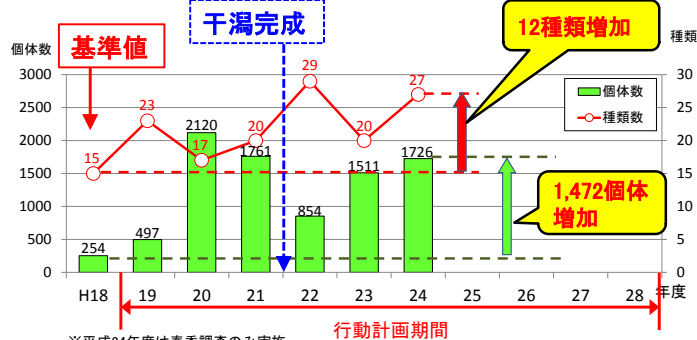


広島港海岸での高潮対策護岸整備にあわせた生物配慮型護岸の整備 (中国地方整備局)

広島湾の状態

生物の種類数、個体数

平成21年度に完成した五日市地区人工干潟では、生物の種類数・個体数ともに増加し、現在も維持しています。



※平成24年度は春季調査のみ実施

広島港五日市地区人工干潟における底生生物の個体数、種類数の推移



スナガニ

レッドデータブックひろしま (準絶滅危惧)



ハクセンシオマネキ

環境省レッドデータブック (絶滅危惧Ⅱ類)



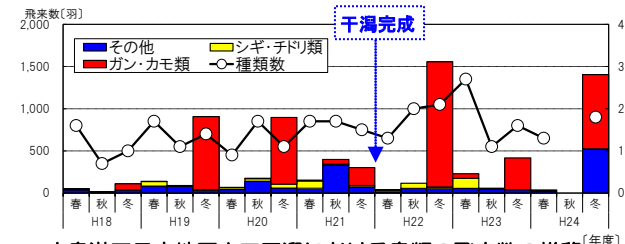
クテバガイ

環境省レッドデータブック (準絶滅危惧)

過去の干潟の消滅や水質汚濁等で減少した生物が、人工干潟の造成により再び生息するようになりました。

トピック

広島港五日市地区の人工干潟は、渡り鳥などの鳥類の生息場の創出を目的に造成され、近年、飛来する鳥類も増加しています。また、クロツラヘラサギなどの貴重な鳥類の飛来や、貴重な干潟生物の生息も見られるようになりました。



広島港五日市地区人工干潟における鳥類の飛来数の推移



クロツラヘラサギ

世界的にも貴重な渡り鳥 (世界で約2,000羽のみ生息)

環境省レッドデータブック (絶滅危惧ⅠA類)



野鳥の会や市民との連携による、人工干潟での探鳥会や清掃活動の開催

評価

- 干潟・藻場の保全再生及び生物に配慮した護岸等の整備については、計画どおり進んでいます。
- 人工干潟を造成したことで、その干潟では生物の種類、個体数ともに大幅に増加しており、現在も維持しています。
- 現在は広島港五日市地区人工干潟でモニタリングを実施していますが、今後も干潟・藻場の保全・再生を、地域の方々との連携も含めて図っていく必要があります。

目標2：人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

これまでの取り組み

野鳥園・緑地、親水護岸等の整備

平成24年度までに、緑地・野鳥園は、目標3箇所のうち1箇所の整備が完了（2箇所計画）し、親水護岸等については、目標1,200mのうち905mの整備が完了しています。



海洋レクリエーション拠点の整備

海洋レクリエーション拠点については、平成24年度までに目標1箇所の整備が完了しています。



野鳥園・緑地



水辺に触れ合える海岸線



海洋レクリエーション拠点

眺望点の整備・修復

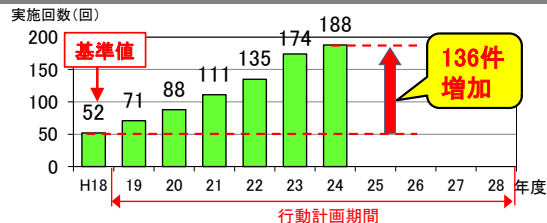
平成24年度までに、目標2箇所の眺望点の整備・修復が完了し、さらに1箇所での整備を実施しています。



宮島弥山展望休憩所（平成25年11月完成）

環境学習活動などの推進

行政機関やNPO団体などが連携して取り組みを行ったため着実に増加しています。



環境教育・普及啓発活動の実施回数の推移



宮島干潟の生き物観察会（環境省）



小学生を対象とした広島湾見学会（中国地方整備局）



広島市環境サポーター養成講座（広島市）



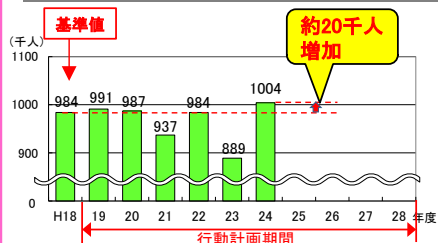
NPO・市民団体・行政の連携による広島湾の環境学習副読本づくり

行政期間やNPOによる環境学習活動

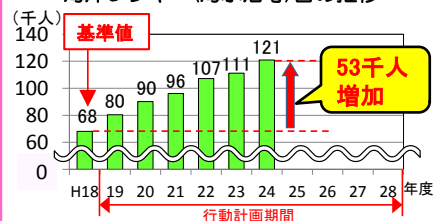
広島湾の状態

海洋レジャー客数

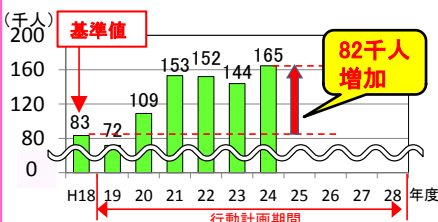
オープンカフェ、クルーズ船などの新たなレジャーを中心に、海洋レジャー客数は増加しています。



海洋レジャー(海水浴等)客の推移



観光クルーズ船の利用者数の推移



オープンカフェ利用者数の推移

市民連携によるイベント等の新たな取り組みが増加。



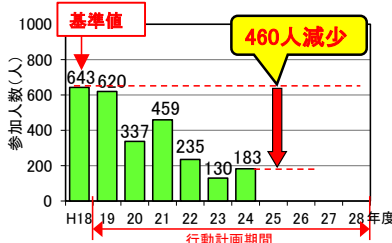
元オリンピック選手によるビーチバレースクール（バイサイドビーチ坂）



水辺のコンサート（元安川親水テラス）

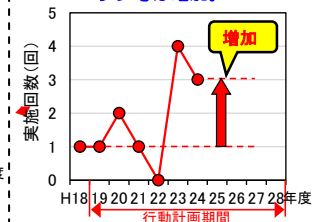
シンポジウム、フォーラムへの参加人数

広島湾の保全・再生に関する大規模なシンポジウムの開催は減少していますが、近年は広島湾の水環境改善のためのワークショップ等を開催しています。



シンポジウム・フォーラムへの参加人数の推移

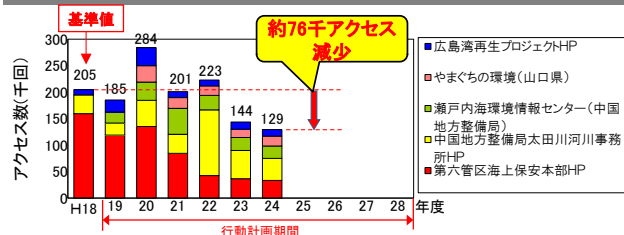
行政、またはNPOと行政の連携による広島湾に関するワークショップ等は増加。



住民参加型ワークショップの実施回数の推移（行政と連携）

ホームページへのアクセス数

近年、広島湾及び流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数が減少しています。



広島湾及び流域の環境情報に関するホームページへのアクセス数の推移

評価

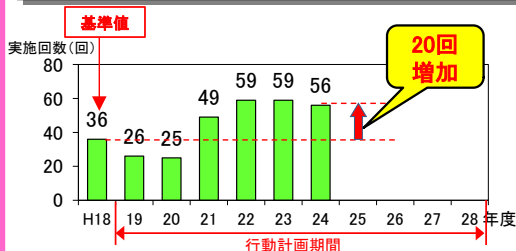
- 緑地・野鳥園、親水護岸や海洋レクリエーション拠点などの親水空間の整備は、計画どおり進んでいます。
- 環境学習などの活動は、各関係機関、NPO団体等が連携し取り組みを行ったため着実に増加しています。
- 海洋レジャー関係は、オープンカフェやクルーズなど新たなレジャーを中心に増加しています。
- シンポジウム等の開催は減少していますが、近年は広島湾の水環境改善のためのワークショップ等を開催しています。
- 今後も、市民の関心を高めるよう、広島湾の保全・再生の活動を広く知ってもらい取り組みが必要です。

目標3：宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

これまでの取り組み

住民参加による自然景観、歴史・文化的資源の保全活動

平成 21 年度以降は、取り組みが増加し維持しています。

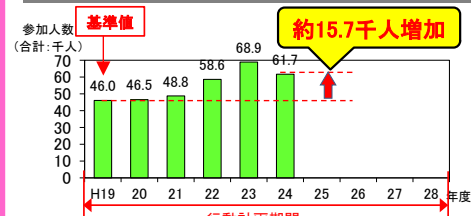


「入浜」の観測、生き物調査
パークボランティアによる
宮島の保全活動

自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組み実施回数の推移

市民連携による清掃活動への参加人数

平成 24 年度はやや減少しているものの、平成 19 年度以降、着実に増加しています。



「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動

市民連携による清掃活動への参加人数の推移

トピック

第1回中間評価では、広島湾の保全・再生に関するさらなる広報の充実を課題としており、広島湾再生推進会議では、広島湾の保全・再生に対する関心を高めていくために、様々なイベントなどを実施しています。

広島湾の魅力と課題を語るワークショップ(H23)

・呉と宮島の2会場で、広島湾の魅力を探るクルーズと、広島湾の魅力と課題について話し合うワークショップを実施。



クルーズの様子



ワークショップの様子

広島湾再生パネル展(H24)

・紙屋町シャレオ中央広場にて、広島湾の現状や魅力、NPO等の取り組みを紹介するパネル展を開催。



中国新聞社連載企画
「命のゆりかご」展示



森・川・海の活動を
パネルで紹介

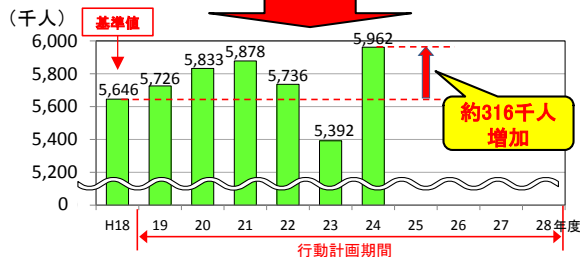
広島湾の状態

代表的な観光地への年間入込客数

年間入込客数は、平成 23 年度に震災の影響で減少したものの、平成 24 年度は再び増加しています。



代表的な観光地の場所



代表的な観光地への年間入込客数の推移

自然海岸などの保全状況

NPO やボランティアの清掃活動により、観光地や海岸が美しく維持されていますが、一部の海岸で漂着ごみが見られます。



厳島神社周辺



元宇品周辺
観光地の状況



海岸での漂着ごみ



回収されたごみの状況
一部海岸での漂着ごみの状況

評価

- 住民参加による自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みは増加し維持しており、市民連携による清掃活動等の参加人数は増加しています。
- 広島湾周辺の観光地の年間入込客数は、平成 23 年度に震災の影響で減少したものの、平成 24 年度は再び増加しています。
- 観光地では適切に管理されているものの、その他の一部の海岸でごみの散乱が見られるため、継続的な景観保全の取り組みが必要です。

3. パブリックコメント結果及び個別意見と、ご意見に対する考え方について

質問	中間評価結果に対する主なご意見		ご意見に対する考え方
中間評価（目標 1－1）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について	妥当ではなく、改善が必要である	・かき収穫量の評価について 「状態が改善傾向にある」ではなく、「状態が概ね維持されている」に変更すべきである。	・「かき収穫量」については、近年は赤潮等による漁業被害を受ける事無く、行動計画策定前（平成 18 年度末時点）に比べ、目標に向かって増加していることから、「状態が改善傾向にある」と評価しました。
		・赤潮の発生状況について 「状態が改善傾向にある」ではなく、「状態が概ね維持されている」に変更すべきである。	・第 2 回中間評価（平成 24 年度末時点）では、行動計画策定前（平成 18 年度末時点）を基準として評価することとしており、平成 24 年度末時点では、「赤潮の発生状況」は改善傾向にあると考えています。
		・底層の D0 について H20 年と H24 年のデータのみを示したのでは改善傾向なのかどうか判断出来ない。情報の示し方が不適当と考える。	・底層 D0 の情報については、広島湾再生推進会議の構成機関が毎年「広島湾水質一斉調査」を実施しており、その結果を広島湾再生ホームページ及び第六管区海上保安本部ホームページで公表しております。 （今年度の結果） http://www.kaiho.mlit.go.jp/06kanku/news/press/press.pdf/26-01-03.pdf ・また、第 2 回中間評価の本編では、H20 年度以降、毎年データを記載しており、毎年の変動はあるものの改善傾向にあることが確認されております。 ・なお、第 2 回中間評価の本編は、平成 26 年 3 月に開催する広島湾再生推進会議の後、広島湾再生ホームページで公表する予定です。
中間評価（目標 1－2）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について	ある程度妥当な結果である	—	—

質問	中間評価結果に対する主なご意見	ご意見に対する考え方
中間評価（目標２）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について	妥当ではなく、改善が必要である ・シンポジウム・フォーラムへの参加人数 参加人数は明らかに減少しているの、「状態が概ね維持されている」ではなく、「状態の改善が必要である」に変更すべきと考える。	・ご指摘のとおり、シンポジウム・フォーラムへの参加者の人数は減少していることから、「状態の改善が必要である」に変更します。 ・なお、今後は住民参加の取り組みを広げていくために、多様な主体をつなげ、情報共有・提供のためのプラットフォーム（仮）づくりを検討していく予定です。
中間評価（目標３）における評価の結果（評価を行った項目、評価結果の妥当性）について	妥当ではなく、改善が必要である ・市民連携による清掃活動への参加人数について イベントの数を増やせば参加人数も増えるのは当たり前で、考えなくてはいけないのは、人数ではなく自主的に清掃活動を行うボランティアの育成ではないのか。 ・代表的な観光地への年間入込客数について そもそも観光地への入場者数が広島湾再生の指標になるのかはなはだ疑問である。	・市民連携による清掃活動への参加人数については、イベントに参加した人数だけではなく、地域住民や漁業者が自主的に行っている清掃活動の参加人数も含んでおり、自主的に清掃活動を行う人数も増えてきています。 ・ご指摘のとおり、自主的に清掃活動を行うボランティアの育成は重要であると考えています。 ・広島湾再生行動計画では、広島湾に存在する豊富な自然景観、歴史・文化などの豊富な資源を観光地としても活用しつつ、地域と連携して保全し、次世代へ継承していくことを目標に掲げています。 ・これを踏まえ、広島湾再生推進会議の構成機関が、広島湾の魅力を発信し、観光客の増加を図るための取り組みを行っており、観光地への入場者数の増加も目標達成の指標になると考えています。
その他、広島湾再生行動計画に関する要望や、取組結果・中間評価結果に関する意見等。	・そもそもなぜ広島湾再生について国土交通省が行うのか分からない。環境省がやればよいのではないのか。 ・この事業にどれだけの経費を掛けているのか知らないが、広島湾の水質の評価や底質の評価は一切やらないで、何が広島湾再生行動計画なのか分からない。これらに参加している自治体からは疑問の声は出ていないのか。 ・この程度の取り組みしか出来ないのであれば、計画自体止めた方がよい。お金の無駄だ。	・広島湾再生推進会議には、国土交通省だけではなく、環境省を含む様々な国の機関、地方自治体が構成機関として参画しており、これらの機関が連携しながら行動計画の取り組みを進めているところです。 ・第２回中間評価の本編では、広島湾の水質の評価や底質の評価についても記載しており、これらの評価結果に基づき、行動計画のフォローアップを行いながら、目標達成のために必要かつ効果的・効率的な施策を、構成機関が連携し実施しているところです。